

令和7年度

# 秋田県果樹試験場業務報告

第69巻

---

Annual Report For 2025

Vol.69

秋田県果樹試験場

(秋田県横手市平鹿町醍醐)

---

Akita Fruit-Tree Experiment Station  
Daigo, Hiraka, Yokote, Akita, Japan

# 令和7年度秋田県果樹試験場業務報告 目次

1	位置	1
2	沿革	1
3	組織体制	
(1)	組織の概要	1
(2)	職員数	2
(3)	業務分担	2
(4)	会計年度任用職員	3
4	事業概要	
(1)	事業別予算額	4
(2)	面積・建物・施設設備	
①	面積	4
②	主要施設	4
③	主要機械・機器	5
④	立木竹	5
5	試験研究の概要	
(1)	基本方針	6
(2)	各部・チームの研究活動目標	8
(3)	令和7年度実施課題	
①	課題一覧	10
②	課題の内容	11
6	主要行事・会議等	
(1)	主催行事・会議等	26
(2)	研究管理のための場内会議・検討会	26
(3)	場内に設置されている委員会等	26
7	技術支援	
(1)	委員委嘱	27
(2)	講師派遣	28
(3)	担い手受入研修	
①	秋田アグリフロンティア育成研修	33
②	リンゴ栽培基礎講座	33
③	インターンシップ体験研修	34
8	研究成果の発表・広報	
(1)	主要刊行物の発行状況	35
(2)	実用化できる試験研究成果	35
(3)	果樹試験場研究成果発表会	35
(4)	学会誌・研究会誌等	35
(5)	学会発表・研究会発表	35
(6)	雑誌等への投稿	36
(7)	新聞等への投稿	36
(8)	ホームページの掲載情報	36
9	職員の研修	38
10	視察・見学対応	40

参考資料

(1) 令和7年半旬別気象表-----	41
(2) 生育概況	
① リンゴ-----	47
② オウトウ-----	48
③ ニホンナシ-----	48
④ ブドウ-----	49
⑤ モモ-----	50
(3) 病害虫の発生状況	
① リンゴ-----	51
② オウトウ-----	51
③ ニホンナシ-----	51
④ ブドウ-----	52
⑤ モモ-----	52
(4) 気象災害の発生状況	
① 県北部-----	53
② 県中部-----	53
③ 県南部-----	53
(5) 果樹の生態と果実品質	
① リンゴ-----	54
② オウトウ-----	57
③ ニホンナシ-----	58
④ ブドウ-----	62
⑤ モモ-----	63

## 1 位置

本 場：秋田県横手市平鹿町醍醐字街道下65

北緯39° 14′、東経140° 32′、標高 85m

天王分場：秋田県潟上市天王字鶴沼台43

北緯39° 51′、東経140° 01′、標高 7m

かづの果樹センター（鹿角地域振興局 農林部 農業振興普及課 果樹産地支援チーム）

：秋田県鹿角市花輪字小坂野3番地の12

北緯40° 15′、東経140° 49′、標高155m

## 2 沿革

大正13年：秋田市八橋に農事試験場が果樹試験地を設置する。

昭和32年：農事試験場八橋試験地を廃止し、平鹿郡醍醐村（現横手市平鹿町醍醐）に果樹試験場を、鹿角郡花輪町（現鹿角市花輪）に花輪分場を設置し、1試験場、1分場となる。

昭和33年：南秋田郡天王町（現潟上市天王）に天王分場を設置し、1試験場、2分場となる。

昭和38年：本場を係・科制（庶務係・栽培科・園芸科学科・病害虫科）とし、1係、3科、2分場となる。

昭和49年：品種改良科を新設し、1係、4科、2分場となる。

昭和53年：花輪分場を鹿角分場に改称する。

昭和58年：本場を部制（管理部・栽培部・環境部）とし、3部、2分場となる。

平成18年：組織改編により秋田県農林水産技術センター果樹試験場（管理室・リンゴ部・特産果樹部）に改称する。

平成19年：分場を管理室の下に配置し、鹿角分場班・天王分場班に改称する。

平成22年：鹿角分場を鹿角地域振興局農林部普及指導課果樹産地支援班（かづの果樹センター）として再編する。

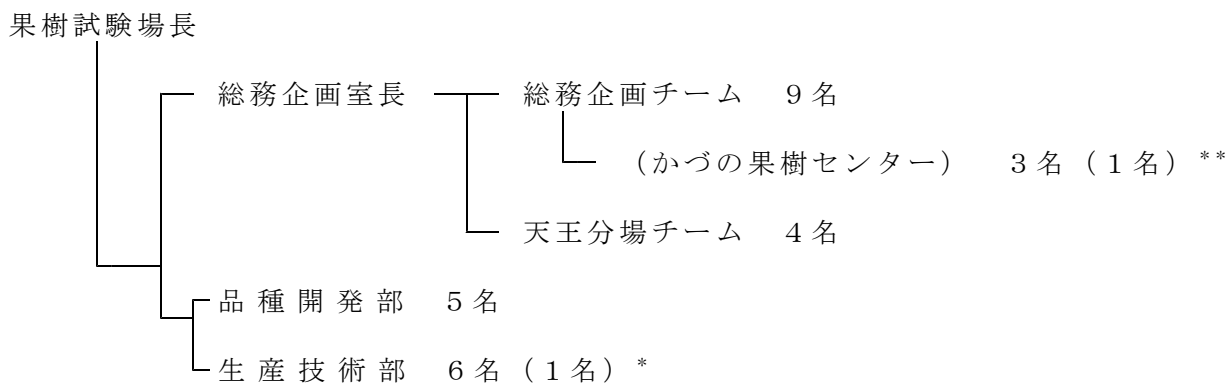
平成24年：秋田県果樹試験場（総務企画室・リンゴ部・特産果樹部）に改称する。

平成26年：リンゴ部・特産果樹部を品種開発部・生産技術部に再編する。

令和6年：班をチームに改称し、班長をチームリーダーとする。

## 3 組織体制

### (1) 組織の概要



\* ( ) 内は総務企画室兼務職員

\*\* ( ) 内は鹿角地域振興局農林部本務職員

(2) 職員数

令和7年4月1日

区 分	事務職員	技術(研究)職員	現業職員	計
場 長		1		1
総務企画室長		1		1
総務企画チーム	7		2	9
(かづの果樹センター)		2 (1)**	1	3 (1)**
天王分場チーム		3	1	4
品種開発部		5		5
生産技術部		6 (1)*		6 (1)*
計	7	18 (2)	4	29 (2)

\* ( ) 内は総務企画室兼務職員

\*\* ( ) 内は鹿角地域振興局農林部本務職員

(3) 業務分担

部・室	チーム	業務内容	職名	氏名
		場の総括	場 長	中尾 学
総務企画室		総務企画室・試験研究の総括	室 長	舟山 健
	総務企画 チーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算及び決算に関すること</li> <li>・場内運営管理全般に関すること</li> <li>・庁舎等施設の維持管理に関すること</li> <li>・分場の連絡調整に関すること</li> <li>・研究の企画調整に関すること</li> <li>・各種行事、フロンティア育成研修等に関すること</li> <li>・圃場の管理運営に関すること</li> </ul>	主幹(兼) チームリーダー 主 幹 シニアエキスパート 副主幹 専門員 専門員 主 事 技能主任 技能技師	佐藤 守 松井 彰 船山 瑞樹 高木原弥生 斉藤 守 佐藤 裕 杵澤 諭 加賀谷恭一 東海林宏紀
	(かづの果 樹 センター)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リンゴ・モモの病虫害防除及び栽培試験に関すること</li> <li>・リンゴ・モモの品種・系統適応性試験に関すること</li> <li>・雨よけ施設を活用したモモの省力・高収益生産モデルの構築</li> <li>・リンゴの輸出先国の農薬等規制見直しに対応した生産技術体系の確立に関すること</li> <li>・有害動植物発生予察事業及び生育調査等、各種栽培情報の提供に関すること</li> <li>・圃場の管理運営に関すること</li> </ul>	上席研究員 (兼)チームリーダー 研究員 技能主任	熊谷 一 (本務：鹿角地域振興局) 長崎 仁甚 米田 慶栄
	天王分場 チーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雨よけ施設を活用したニホンナシ、イチジクの省力・高収益生産モデルの構築</li> <li>・ニホンナシの新品種導入・系統適応性試験に関すること</li> <li>・果樹(ナシ)のスマート化を図る機械化と管理技術の実証に関すること</li> </ul>	主任研究員 (兼)チームリーダー 主任研究員 研究員 技能技師	長澤 正士 松山 奈央 渡会 直人 後藤 翔太

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ナシの輸出先国の農薬等規制見直しに対応した生産技術体系の確立に関すること</li> <li>・新農薬の効果確認及び実用化に関すること</li> <li>・有害動植物発生予察事業及び生育調査等、各種栽培情報の提供に関すること</li> <li>・圃場の管理運営に関すること</li> </ul>	
品種開発部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リンゴのオリジナル品種育成と優良系統の選抜に関すること</li> <li>・果樹（リンゴ・ブドウ・モモ・オウトウ等）の新品種導入と系統適応性試験に関すること</li> <li>・リンゴ・ブドウ・モモ・オウトウ・セイヨウナシの生育調査と情報提供に関すること</li> <li>・オリジナル品種の高品質果実生産技術の確立に関すること</li> <li>・地球温暖化に伴う環境変化に適応できる新たな果樹栽培に関する研究</li> <li>・果樹の土壌改良、施肥、栄養診断及び生理障害に関すること</li> </ul>	部長 高橋 功 主任研究員 中澤みどり 主任研究員 後藤加寿子 技師 伊藤 まり 技師 篠田 亜美
生産技術部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・果樹の新たな耐雪技術の開発に関すること</li> <li>・果樹のスマート化を図る機械化と管理技術の実証に関すること</li> <li>・地球温暖化に伴う環境変化に適応できる新たな果樹栽培に関する研究</li> <li>・リンゴの持続可能な環境負荷低減防除体系の構築に関すること</li> <li>・リンゴの輸出先国の農薬等規制見直しに対応した生産技術体系の確立に関すること</li> <li>・果樹の病害虫防除技術に関すること</li> <li>・新農薬と植物生育調節剤の効果確認及び実用化に関すること</li> <li>・有害動植物発生予察事業に関すること</li> </ul>	部長 照井 真 主任研究員 小林香代子 研究員 高橋 佳大 技師 佐藤 一磨 技師 阿部 紀之 専門員 佐藤 裕 (本務 総務企画チーム)

**(4) 会計年度任用職員（令和7年4月1日）**

総務企画チーム	佐藤 恵、神園 隆行、小野寺真弓、菊地 利明
天王分場チーム	貝塚 悠介、小野 兄一、石井 義一
品種開発部	細川 瑠美
生産技術部	沼澤 暁子

#### 4 事業概要

##### (1) 事業別予算額（令和7年当初）

（単位：千円）

事項名	予算額	財 源 内 訳				
		一般財源	国庫支出金	諸収入	財産収入	使用料
管理運営費	18,043	17,938	0	76	18	11
研究施設維持管理費	27,720	21,810	0	110	5,800	0
研究推進活動費	2,920	2,907	0	13	0	0
政策研究費	4,438	4,438	0	0	0	0
外部資金活用研究費	14,110	0	0	14,110	0	0
合 計	67,231	47,093	0	14,309	5,818	11

##### (2) 面積・建物・施設設備

###### 1) 面積

（単位：㎡）

区 分	本 場	天王分場	(かづの果樹センター)
圃 場	67,120	38,000	83,000
建物敷地	2,724	1,598	1,774
道路、防風林、他	7,908	59,645	19,380
合 計	77,752	99,243	104,154

###### 2) 主要施設（延床面積）

（単位：㎡）

区 分	本 場	天王分場	(かづの果樹センター)
本 館	2,449	670	652
書庫及び休憩室	436		
附属舎		557	
冷蔵庫 (貯蔵室)	310 (72)		324
業務員休憩室	} 347		
倉庫			
車庫		35	101
害虫飼育室	100		
格納庫	364	182	630
ポンベ室	13	18	
堆肥舎	24	27	17
ポンプ室	54	27	17
油庫	9	5	
温室	130	57	
馴化室	98		
網室	201		

### 3) 主要機械・機器（令和8年3月末現在）

品名（用途）	場所・実験室
低温恒温槽（害虫飼育）	害虫飼育室
ガスクロマトグラフィー（ガス組成分析）	分析室
窒素蒸留装置（土壌、植物体分析）	窒素蒸留室
生物顕微鏡（病原菌の分類・同定）	病害生理生態実験室
気象観測装置（気象観測）	本場
発電ロボシステム	天王分場
デジタルマイクロスコープ	生理実験室
純水・超純水製造装置	土壌肥料実験室
農業用電動無人作業車	本場
Microsoft Holo Lens2 を用いたリンゴ摘花・摘果の習得・補助システム	生産技術部

### 4) 立木竹（令和8年3月末現在）

樹種	（単位：本）		
	本場	天王分場	（かづの果樹センター）
イチジク	—	—	—
オウトウ	23	—	—
ナシ	15	675	—
ブドウ	13	32	—
モモ	11	—	134
リンゴ	391	—	515
ブルーベリー	—	—	260

## 5 試験研究の概要

### (1) 基本方針

急速に進む果樹農家の減少や果樹産地縮小など、果樹農業を取り巻く環境の変化に対応していくためには、限られた研究資源を選択・集中させ、現地実証を通して、研究成果を一刻も早く普及させる必要がある。

そこで、これまでの成果・課題等を踏まえ、次の4つの基本方針の下に、関連する7つの重点テーマを設けて技術開発と実証を行う。

- I 果樹産地活性化・創出のためのオリジナル品種開発と品種・樹種の選抜
- II 気候変動に対応した高品質果実安定生産の確立
- III 新規参入・規模拡大を容易にするスマート農業の確立
- IV 環境に調和し持続可能な果樹経営に向けた管理技術の確立

### A 重点的に取り組む研究のテーマ

#### 【基本方針 I】 果樹産地活性化・創出のためのオリジナル品種開発と品種・樹種の選抜

本県では、リンゴ「秋田紅あかり」は生産量が増加し輸出が進むなど、秋田の「顔」として今後ますます振興が期待されている。また、ブドウ「シャインマスカット」やブルーベリーで新規栽培者が増加し、新しい果樹産地が出現する事例もみられている。

そこで、本県の果樹産地の活性化と創出のため、その要となるオリジナル品種の開発や、既存の品種・樹種の中から本県に適応性の高いものを選抜する。

#### 重点テーマ① 新たな特性を有するオリジナル品種の育成と需要獲得に向けた技術の開発

多様化する消費者ニーズや省力化など果樹生産者のニーズに応えるため、新たな特性を有するオリジナル品種を育成する。また、開発した品種が実需を獲得できよう、実需のニーズに対応した生産・流通技術を確立する。

具体的には、リンゴの交雑育種や、リンゴ・ナシ・オウトウへの突然変異育種法による新品種開発を継続的に進める。また、果樹生産者のニーズに対応した生食兼加工品種や省力栽培品種等の品種開発を行う。

さらに、開発したオリジナル品種の需要獲得に向けて、輸出先国の農薬等の規制見直しに対応した生産技術体系の実証に取り組むほか、果実の貯蔵性や加工適性を検討し、必要な課題の解決などにも取り組む。

#### 重点テーマ② 本県に適応性を持つ品種・系統及び地域特産果樹の選抜

本県の栽培環境等に適した品種・系統及び地域特産果樹の選抜を行う。

他県や民間等で育成したニホンナシ、ブドウ、モモ、オウトウの品種や、農研機構果樹茶業研究部門等で育成された系統について、本県での栽培特性を把握する。

また、果樹産地の活性化や新たな需要の創出を狙いとし、地域特産樹種・品種の選抜を進めるとともに、普及のための栽培技術確立に取り組む。

## 【基本方針Ⅱ】気候変動に対応した高品質果実安定生産の確立

令和2年度に大きな被害をもたらした雪害のほか、晩霜害、凍寒害、強風害、高温による日焼け果や着色不良果の増加など、近年災害が恒常化し安定生産を脅かしていることから、気候変動に対応した高品質果実安定生産技術を確立する。

### 重点テーマ③ 気象災害に強い果樹栽培技術の確立

地球温暖化に適応する新たな樹種としてアーモンドとカンキツ類の栽培に取り組み、生育特性の解明と生産上の問題点および対応策の検討を行う。

また、頻発する気象災害に強い果樹栽培技術の確立を目指し、雪害対策としても注目されているリンゴの高密度植栽培による作業の省力化や収量性、耐雪性などの実証を行う。

さらに、雨よけハウス等の施設によって、生育環境を制御し気象災害を軽減・防止する方法を実証する。

## 【基本方針Ⅲ】新規参入・規模拡大を容易にするスマート農業の確立

果樹農業者の高齢化と減少に対応するため、新規果樹参入や規模拡大を促す必要があることから、省力で平易な果樹栽培を実現するスマート農業の確立に向けた技術開発と実証を行う。

### 重点テーマ④ 省力樹形や先端工学技術等を活用したスマート農業の実証

果樹栽培の省力化・平易化を図るため、省力樹形とロボット技術・ICT等を組み合わせた実証を行う。

リンゴ、ブドウ、ナシについて、省力化が期待される最新の管理作業機械を導入し実証を行う。

また、ハウス等施設を利用した省力栽培法の実証を行うとともに、今後は、ロボット等スマート農機導入を前提にした省力樹形と最新のスマート農機、ICTを組み合わせた省力かつ平易な生産体系の実証に取り組む。

### 重点テーマ⑤ 果樹産地を支えるスマート農業技術の開発

果樹産地での新規参入や規模拡大を促すため、省力化や平易化につながるスマート農業技術を開発する。

リンゴの摘花・摘果作業の技術習得・補助のためのスマートフォンを用いたシステムを開発する。今後も工学系研究機関やメーカーとも連携しながら、管理作業の省力化や平易化につながる新たなスマート農機やシステムの開発に取り組む。

## 【基本方針Ⅳ】環境に調和し持続可能な果樹経営に向けた管理技術の確立

近年、持続可能な農業生産に向けて、環境保全型農業や循環型農業に対する社会的関心は一層強くなり、SDGsや「みどりの食料システム戦略」においても実効性のある取組が求められている。また、本県においても、薬剤耐性菌や薬剤抵抗性を持つハダニ類が顕在化し、これまでの病虫害防除等の見直しが必要になっている。

そこで、環境に調和した持続可能な果樹経営に向けて、新たな生産管理技術を確立する。

### 重点テーマ⑥ 農薬等防除資材の効率的使用による環境負荷低減技術の確立

農薬等防除資材を効率的に使用することで環境負荷を低減させる技術の確立を図る。

リンゴうどんこ病の防除剤としての有効性が示されている水和硫黄剤を春季の主剤として利用することにより、重要病害である黒星病や褐斑病などに対する防除効果を検討する。リンゴの土着天敵活用のため大幅に防除圧を低減した防除体系を確立するため、現行の農薬散布体系に比べて殺虫剤と殺菌剤の防除圧を大幅に低減したプロトタイプのリンゴ病害虫防除体系を実践し、そこで生じた問題点を改善することで持続可能な環境負荷低減防除体系モデルを構築する。さらに、今後は、天敵製剤を含めた最新の各種防除資材を活用することで、殺菌剤・殺虫剤・殺ダニ剤削減体系の確立に取り組む。

### 重点テーマ⑦ 地域の生物機能を活用した生産体系の開発

農薬等防除資材に過度に頼らない栽培方法が求められていることから、地域の生態系サービスや、園地の草生機能、土壌微生物等を活用した新たな生産体系を開発する。

果樹園におけるミミズの生態や有用性、活用方法を明らかにするほか、今後は、訪花昆虫や土壌生物等の生態系サービスを活用することで、受粉や肥培管理等を代替する技術の開発や草生機能・土壌微生物を活用した土壌管理技術の開発に取り組む。

## B 必須の調査研究テーマ

生産現場において栽培管理や病害虫防除を適切に実施するのに有用な情報を提供するために、次の事項を必須の調査研究テーマとする。

### (ア) 気象及び主要果樹の生態・果実品質等に関する調査

リンゴ・ニホンナシ・ブドウ・オウトウ・モモの生育状況（生態・果実肥大・品質・花芽形成等）を調査し、栽培管理に関する情報提供の基礎資料とする。また、過去の調査結果や気象観測データと合わせ、気象災害時の対応策や地球温暖化の進行が主要果樹に及ぼす影響を解析するためのデータベースとして活用する。

### (イ) 果樹病害虫発生予察に関する調査

主要果樹における病害虫の動態を調査し、病害虫発生予察情報（病害虫防除所発行）の作成に際し情報提供する。

### (ウ) 新農薬等の効果確認及び実用化試験

果樹の新農薬（殺菌剤・殺虫剤）及び植物生育調節剤、除草剤の本県における効果を確認し、県の防除基準・使用基準策定の資料とする。

## (2) 各部・チームの研究活動目標

<品種開発部>

- ・リンゴの新品種開発と優良品種の選抜
- ・果樹経営の要となる多様な新品種の提案（リンゴ・ブドウ・オウトウ・モモ）
- ・新しい品種の普及定着に関する調査や研究
- ・地球温暖化に適応できる新たな樹種の研究

<生産技術部>

- ・気候変動や気象災害対策技術の研究
- ・果樹栽培におけるスマート農業技術の実証および開発
- ・リンゴの持続的な環境負荷低減防除体系の構築
- ・加工リンゴを推進するための生産技術開発
- ・

<かづの果樹センター>

- ・モモ雨よけ施設栽培における省力性や生産性、環境負荷軽減に関する研究
- ・県北部に適応性の高い品種の選抜
- ・輸出先の農薬等の規制見直しに対応した生産技術体系の実証

<天王分場チーム>

- ・ハウス盛土式根域制御栽培による省力安定生産
- ・ニホンナシ新品種の特性の把握と優良品種の選抜
- ・果樹栽培のスマート化を図る機械化と管理技術
- ・ニホンナシの低温障害に関する研究

### (3) 令和7年度実施課題

#### ① 課題一覧

番号	課題分類 (基本方針-重点No)	課題名 (担当部チーム)	試験 期間	予算 区分	当初予算 (千円)	掲載 ページ
1	I-①	果樹産地再生の基盤となる新品種の育成と選抜 (品種開発部、かづの果樹センター)	H28~R7	政策	461	11
2	I-①	輸出先国の農薬等の規制見直しに対応した生産技術体系の実証(生産技術部、かづの果樹センター、天王分場チーム)	R4~R7	配当	650	12
3	I-②	園地更新や新規参入を促す新たな果樹栽培技術に適合する品種の選抜(品種開発部、かづの果樹センター、天王分場チーム)	R3~R12	政策	985	13
4	I-②	令和7年度果樹育成系統特性調査(リンゴ) (品種開発部)	R7	受託	110	14
5	II-③	地球温暖化に伴う環境変化に適応できる新たな果樹栽培に関する研究(生産技術部、品種開発部)	R7~R11	政策	1,453	14
6	III-④	雨よけ施設を活用した果樹の省力・高収益生産モデルの構築(天王分場チーム、かづの果樹センター)	R5~R9	政策	1,218	15
7	III-④	加工用リンゴ導入による規模拡大を推進するための生産技術開発(生産技術部、品種開発部)	R6~R9	配当	2,500	16
8	III-⑤	スマートグラスを用いた技術習得・補助システムの開発 (生産技術部)	R4~R7	配当	1,076	17
9	IV-⑥	春季に感染するりんご病害に対する水和硫黄剤利用による環境負荷低減防除体系の確立(生産技術部、総務企画チーム)	R6~R8	配当	140	18
10	IV-⑥	リンゴの土着天敵フル活用のための持続可能な環境負荷低減防除体系の構築(生産技術部)	R4~R8	政策	614	19
11	IV-⑥	リンゴのナミハダニ防除における発生源対策を主眼とした新たな殺ダニ剤利用技術の確立(生産技術部)	R5~R7	配当	140	20
12	IV-⑥	安価で使用性に優れた国産カブリダニ剤の開発(生産技術部)	R5~R7	受託	2,200	21
13	IV-⑦	ミミズの土壌肥沃度改善機能を農地で活用する-メカニズム解明から野外実証まで-(生産技術部)	R3~R8	受託	150	22
14	必須-①	気象及び主要果樹の生態・果実品質等に関する調査 (品種開発部、生産技術部、かづの果樹センター、天王分場チーム)	S35~	-	-	23
15	必須-②	果樹(リンゴ、ナシ、ブドウ)病害虫発生予察事業 (生産技術部、かづの果樹センター、天王分場チーム、総務企画チーム)	S40~	配当	100	24
16	必須-③	新農薬等の効果確認及び実用化試験(生産技術部、品種開発部、かづの果樹センター、天王分場チーム、総務企画チーム)	R7	受託	10,938	25

## ②課題の内容

番号：1 分類：I-①	果樹産地再生の基盤となる新品種の育成と選抜
研究期間：終了 H28～R7 担当部：品種開発部、かつの果樹センター 協力分担：なし	当初予算（政策） 397千円
<p>研究の目的</p> <p>本研究では高齢化や気象災害で低迷する果樹産地の再生を図るために、生産者の所得向上を実現する新品種の開発と選抜に取り組む。</p> <p>リンゴでは市場性の高い外観、食味を有し、貯蔵性に優れた品種を開発する。また、オリジナル品種のみでは手薄となる成熟期や嗜好性などに対応するため、国内外で育成された新品種をいち早く導入し、果実品質などの特性を明らかにし、本県における適応性を検討する。</p> <p>また、気候の温暖化に対応するためにイオンビームの照射（放射線育種法）により5樹種（リンゴ・オウトウ・ニホンナシ・モモ・ブドウ）において既存品種を改良した省力型品種を開発する。</p> <p>さらに、本県のリンゴの品種構成は「ふじ」系が8割と偏重し、受粉樹不足が深刻化しているため、これを解消するコンパクトかつ省力的な受粉専用品種を開発する。</p>	
<p>試験計画</p> <p>(1) リンゴ優良食味品種の開発          (2) イオンビーム（粒子線）による突然変異育種          (3) 国内外で育成されたリンゴ新品種と育成系統の導入と選抜          (4) リンゴ受粉専用品種の育成と選抜</p>	
<p>実績・成果</p> <p>(1) ①前年度に得られた種子から232個体の実生苗を育成した。          ②圃場に現存する1,102個体の内、結実した76個体を調査し、食味等の形質が優良な2個体を一次選抜した。          ③令和6年度に二次選抜した秋田29号の現地試験を県内10か所で開始した。          ④過年度一次選抜し、継続調査している14系統の中から、食味が優良な1系統を注目系統と評価した。</p> <p>(2) ①イオンビーム利用による育種では、リンゴ「秋田紅あかり」の果実の優良着色変異の可能性がある5系統の高接ぎ樹を調査したが、原品種より着色が優良と評価できるものはなかった。          ②同じくモモ「川中島白桃」では成熟期の早い1個体について、形質の安定性を確認するために高接ぎを行い、継続調査とした。</p> <p>(3) 県北部におけるリンゴの新品種導入試験では、「秋田19号」と「HFF63（きみと）」がミツ入り良好で食味が濃厚であることから有望と判定した。</p> <p>(4) 受粉専用として二次選抜した秋田21号について、低温下での発芽性能を調査した結果、「王林」並みであった。これにより特性把握を終え、開花時期や着果特性、樹姿等を加味し、総合的な判断から「ふじ」の受粉専用種として三次選抜した。</p>	

番号：2 分類：I-①	輸出先国の農薬等の規制見直しに対応した生産技術体系の実証
研究期間：終了 R4～R7 担 当 部：生産技術部、かづの果樹センター、天王分 場チーム 協力分担：なし	当初予算（配当）    529千円 [世界市場ニーズ対応型栽培 体系開発事業]
<p>研究の目的</p> <p>国の輸出強化政策によって、農産物27品目の輸出量が大きく動き出し、全国で戦略的に輸出に取り組む生産者の増加が見込まれている。これまで、本県の果樹では、県オリジナルリンゴ品種「秋田紅あかり」のタイやスイスへの生産出荷体制づくりや台湾、タイなどへの輸出ルート開拓に取り組んできた。こうしたなか、世界的には農産物への更に厳しい農薬使用基準の変更が予想され、ネオニコチノイド等使用禁止の動きもある。そこで、これら諸外国の輸入規制基準変更に対応可能なリンゴとナシの病虫害防除体系を実証する。</p>	
<p>試験計画</p> <p>(1) リンゴにおけるネオニコチノイド無散布防除体系の実証          (2) ニホンナシにおけるネオニコチノイド無散布防除体系の実証</p>	
<p>実績・成果</p> <p>(1) 県北部の輸出対応防除体系リンゴほ場では、病虫害の発生は見られたものの、被害は少なく、シンクイムシ類の被害は見られなかった。残留農薬は台湾、タイともに基準値内であった。</p> <p>(2) 県中部の輸出対応防除体系のナシほ場では、各病虫害における防除効果は慣行防除と同程度であった。残留農薬は、台湾、タイともに基準値内であった。</p> <p>(3) 県南部の輸出対応防除体系リンゴほ場では、残留農薬はいずれの成分も台湾、タイの基準値内であった。同防除体系下では、8月中旬以降ナミハダニが急増したが、同時にカブリダニの増加も認められ、果実の成熟への影響や落葉などの被害は認められなかった。また、他の主要病虫害の被害は少なく、シンクイムシ類の被害も認められなかった。</p>	

番号：3 分類：I-②	園地更新や新規参入を促す新たな果樹栽培技術に適應する品種の選抜
研究期間：継続 R3～R12 担当部：品種開発部、かづの果樹センター、天王分 場チーム 協力分担：なし	当初予算（政策） 985千円
<p>研究の目的</p> <p>ナシは自家和合性・自家摘果性・耐病性等を有するもの及び収穫期が「幸水」より早く大玉で食味に優れるもので、ブドウは果皮が赤又は黒色のもので、いずれの樹種も栽培技術の簡素化・軽労化ができる品種・系統を選抜する。モモでは主力品種である「あかつき」と「川中島白桃」を補完する品種で、共同出荷体制の強化につながる品種、オウトウは「佐藤錦」の受粉樹になる良食味品種を選抜する。</p> <p>さらに、食生活の変化による需要者ニーズを満たすため、加工適性に優れた樹種や品種の省力安定生産技術を構築する。</p>	
<p>試験計画</p> <p>(1) ナシ・ブドウにおける省力・早期成園化のための新技術に適應する品種の選抜          (2) ナシ・ブドウ・モモ・オウトウにおける現場ニーズの高い品種・系統の選抜          (3) リンゴ・イチジクにおける加工適性に優れた品種の省力安定栽培技術の確立          (4) 「秋田19号」の生産技術の開発</p>	
<p>実績・成果</p> <p>(1) ①ニホンナシは、「甘ひびき」他5品種の苗木を養成したが、ジョイント接ぎ木が可能な大きさに至らなかった（天王）。          ②県南のブドウは、「ナガノパープル」他1品種が9月上旬、「BKシードレス」が同下旬、「マスカット・ノワール」他2品種が10月中旬、「ブラックフィンガー」他2品種が同下旬に収穫期を迎えた（本場）。          ③県北のブドウは、「クイーンニーナ」が10月下旬、「BKシードレス」が9月中旬の収穫期であった（かづの）。</p> <p>(2) ①ニホンナシ第10回系統適應性試験で、供試6系統を要領に従い調査した（天王）。          ②ブドウ第16回系統適應性試験で、供試3系統の接ぎ木苗を育成した（本場）。          ③モモの「夏かんろ」はみつ症が多く、「真美」は淡泊な食味で裂果がやや多いためいずれも普及性が低いと評価した（本場）。「陽夏妃」、「夏香姫」、「なつっこ」の収穫期は「あかつき」と「川中島白桃」の間であった（本場、かづの）          ④オウトウの「静御前」は、鮮紅色で着色が良く、「ダークビュート」は、暗赤色でやや小さかった。いずれも収穫期は「佐藤錦」と同時期であった（本場）。</p> <p>(3) ①加工向けリンゴ「秋田5号」は、果柄が硬く、摘果作業に時間がかかった。「みしまふじ」はジュース用、「秋田5号」は缶詰用が多い傾向にあった（本場）。          ②加工向けリンゴ「サワールージュ」他2品種は、密植栽培で収量が多く、摘果作業時間が短くなった。一方、果実硬度と糖度は慣行栽培より低かった（かづの）。          ③イチジクの挿し木苗は、黒マルチ敷設で活着率が上がり、1年生から収穫できた。2年生樹は屋内越冬で凍害を回避できたが収量が少なかった（天王）。</p> <p>(4) 「秋田19号」は、11月中旬の果皮色が「りんご黄色品種青森県標準カラーチャート」で指数5以上、地色が「地色カラーチャート（王林用）」で6以上に達したものが、みつ入りに優れ、商品性が高い（本場）。</p>	

番号：4 分類：I-②	令和7年度果樹育成系統特性調査（リンゴ） 内容は非公開
----------------	--------------------------------

番号：5 分類：II-③	地球温暖化に伴う環境変化に適応できる新たな果樹栽培に関する研究
-----------------	---------------------------------

研究期間：新規 R7～R11 担当部：生産技術部、品種開発部 協力分担：なし	当初予算（政策） 1,453千円
--	------------------

研究の目的  
地球温暖化による気温の上昇は今後も進むと予測され、持続的に果樹栽培を行うためにはその環境に適応する新たな技術が必要である。アーモンドおよびカンキツ類は気温上昇により本県でも栽培可能となる樹種と考えられ、生育の可否と生育特性および栽培上の問題点を明らかにする。モモは温量の上昇に伴い収量が増加すると予想され、早期多収、省力安定生産が期待できる新たな低樹高多主枝仕立て法を検討する。リンゴは高温による日焼け果等の高温障害発生が大きな問題となっているため、その軽減対策を検討する。

試験計画  
(1) 新たな樹種の導入に関する研究  
①ミカン科常緑果樹等の栽培適応性の検討  
②アーモンドの生産モデルの確立  
(2) モモの低樹高多主枝仕立てによる早期多収安定生産技術の確立  
(3) リンゴの高温障害対策技術に関する研究  
①日焼け果発生を軽減する散布剤の探索  
②日焼け果発生を軽減する遮光資材の探索

実績・成果  
(1) 由利地域の現地2園地にウンシュウミカン3品種、ユズ、スダチ、カボスを植栽し、生態を調査した。発芽はウンシュウミカンが他に比べ早く、夏枝の発出時期は園地によりばらついた（R7）  
(2) R6に場内圃場へ植栽したアーモンド4品種の生態および樹体生育量を調査した。開花はいずれも4月上旬となり、幹周は「マルコナ（ピンク花）」が、樹高は「ダベイ」が最も生育旺盛であった（R7）。  
(3) 「川中島白桃」を植え付けし、目標樹形に応じて切り戻しを行った。樹体生育量は6本主枝区が最も旺盛で、次いで4本主枝区、2本主枝区だった（R7）。  
(4) リンゴ果実に対して4種類の散布剤を供試した結果、いずれも日焼け果発生軽減効果は判然としなかったが、1剤で果面ヒビ発生率を軽減する効果がみられた（R7）。  
(5) 樹列への遮光シート設置により日焼け果発生率は減少したが、簡易設置施設の強度が低く再検討が必要と考えられた。果実に直接処理する遮光資材を3種類供試した結果、いずれも処理果に日焼け果は発生しなかった（R7）。

番号：6 分類：Ⅲ－④	雨よけ施設を活用した新たな省力・安定生産技術体系の確立
研究期間：継続 R5～R9 担 当 部：かづの果樹センター、天王分場チーム 協力分担：なし	当初予算（配当） 1,218千円
<p>研究の目的</p> <p>ニホンナシとモモについて、施設栽培を前提に省力化と早期多収が見込まれる最新の仕立て法を導入し、栽培技術、かん水技術及びスマート農機を組み合わせる生産モデルを構築・実証する。</p>	
<p>試験計画</p> <p>(1) ニホンナシのハウス盛土式根圏制御栽培による省力・安定生産の実証          (2) モモの雨避け施設栽培による省力・安定生産の実証</p>	
<p>実績・成果</p> <p>①ニホンナシ</p> <p>(1) 「幸水」、「秋泉」とともに着果2年目で、両品種ともに発芽期は露地に比較して2～5日遅かったが、収穫期は1～6日早く、落葉期は3～8日遅かった。</p> <p>(2) 限定受粉区のはラブタッチ区よりも花粉の使用量を8割以上削減できたうえ、作業時間を4割短縮できた。また、「幸水」、「秋泉」とともに限定受粉区は平均果重が大きくなった。</p> <p>(3) 休眠期に「秋泉」で紫変色枝枯れ症の発生したため、収量が計画よりも少なくなった（「幸水」3,0t/10a、「秋泉」1,6t/10a）。また、R8年2月時点で発生が確認されており、次年度の収量減が懸念される。</p> <p>(4) 小型多機能ロボットDONKEY使用による収穫作業では、1果あたりの収穫時間が、「幸水」で2割弱、「秋泉」で1割強削減された。</p> <p>(5) 「秋泉」で10月下旬に全摘葉した樹の2月上旬の紫変色枝枯れ症発生樹率は14.3%、発生主枝率も14.3%であった。一方、無処理樹はそれぞれ100%、93.8%で摘葉による発症の抑制効果が認められた。</p> <p>(6) 鱗翅目害虫の発生が5～9月まで確認されたが少発生であり、アブラムシ類等の同時防除で対処が可能であった。アブラムシ類は発生初期にネオニコチノイド剤散布で増加を抑制できた。ハダニ類は殺ダニ剤の防除が適期でなかったことから増加を抑制できなかった。なお、本年は農薬を9回散布し、6薬剤を使用した。</p> <p>②モモ</p> <p>(7) 遮光資材によりハウス内の気温上昇は昨年度より抑えられ、樹体生育は良好であったが、核割れにより果実の収穫はできなかった。昨年度に続き、病害は極少発生であったが虫害の発生がみられ、防除回数は4回（慣行15回）となった。</p>	

番号 7 分類：Ⅲ－④	加工用リンゴ導入による規模拡大を推進するための生産技術開発
研究期間：継続 R6～R9 担 当 部：生産技術部、品種開発部 協力分担：なし	当初予算（配当） 1,257千円 [加工用りんご普及拡大事業(新たな果樹産地創造事業)]
<p>研究の目的</p> <p>県内のリンゴ産地では、担い手の高齢化や度重なる雪害に端を発し、耕作放棄地が増加している。一方、ジュースや製菓など加工用果実の需要は年々増加しており、特に国産果実の供給に対する要望が強い。そこで、加工需要に特化したリンゴの超省力栽培体系を確立し、規模縮小を計画している園地や耕作放棄地に技術導入することで、果樹産地の維持を図る。</p> <p>本課題では、作業時間の大部分を占める着果管理と収穫作業の省力化を目的に、植調剤や新たな作業器具の利用を検討する。</p>	
<p>試験計画</p> <p>(1) 既存薬剤を活用した果実管理作業の省力化          (2) 省力的な収穫作業方法の検討</p>	
<p>実績・成果</p> <p>(1) 摘花剤（サニデイEW 2,000倍）処理区は摘花効果が強く発現し、処理20日後の側花落花率は85.5%（無散布52.7%）となった。ただし、1区においては中心花の落花率66.7%（無散布28.0%）と高かった。</p> <p>(2) 全頂芽の1果摘果に要した時間は、サニデイEW、エコルーキーともに無処理と比較して約1/2となった。</p> <p>(3) 収穫果をJA秋田ふるさとジュース加工所において搾汁した結果、搾汁率は37%となり、通常のジュース用果実の搾汁率（45%）より低くなった。これは、果実が小さいことで果心部が相対的に多くなったことが原因と考えられた。</p> <p>(4) 肩掛け式の収穫袋は、両手が使えるため作業性が良いが、肩や首への荷重が大きいため、果実を入れすぎると手かごより疲労しやすかった。</p> <p>(5) 果実の輸送に供試したフレコンバッグは、ジュース工場などの搬入先ではリフトで吊り上げて移動することから、コンテナのような軽トラックから下ろしたり、工場内で搾汁機に果実を人手で移し替えたりする作業が不要となり、身体的な負担が小さくなる。</p> <p>(6) 収穫時間の比較では、収穫袋と収穫カゴ、フレコンとコンテナの間に明瞭な差はみられなかった。</p>	

番号： 8 分類： III-⑤	スマートグラスを用いたリンゴ摘花・摘果技術の習得・補助システムの開発
研究期間： 終了 R4～R7 担 当 部： 生産技術部 協力分担： 秋田県立大学、産業技術センター、(株) デジタル・ウント・メア	当初予算（配当） 870千円 [デジタルデータ活用研究推進事業]
<p>研究の目的</p> <p>果樹の生産現場は深刻な労働力不足に陥っており、雇用労働力に頼らざるを得ない状況にある。しかし、果樹管理作業は熟練を要するため、未経験者でも即戦力として作業従事するための作業支援機材の開発が求められている。本課題ではスマートグラスにリンゴの摘花・摘果作業に必要な情報を表示することで、作業者が摘花・摘果作業を的確に行うことができるシステムの開発を目的とする。なお、研究は県立大学、産業技術センター、民間ソフト開発メーカーとともに「スマートグラス技術習得・補助システム開発コンソーシアム」を構成し共同で行う。</p>	
<p>試験計画</p> <p>(1) 幼果の着果密度及び着果位置を表示する判定回路の開発          (2) 幼果の形状から収穫果の品質を推測する判定回路の開発</p>	
<p>実績・成果</p> <p>(1) 花や幼果を認識する判定回路開発のため、4月の摘花から6月末の仕上げ摘果までの作業について継続的に撮影を行い、画像データを県立大学へ提供した（R4～R7）。</p> <p>(2) 仕上げ摘果に利用するモードとして6種類のモードを開発し、スマートグラスに搭載した（R7）。また、果実肥大予測モードは判定対象の果実がわかりにくく、改良を行った（R6、R7）</p> <p>(3) 幼果から収穫時の品質を予測する回路開発のため、リンゴの幼果250果について、週に1回、果実の4方向から写真を撮影し、収穫後には果実品質を調査した。これらのデータを県立大学へ提供した（R4～R7）。</p>	

番号：9 分類：IV-⑥	リンゴ病害の水和硫黄剤を利用した環境負荷低減防除体系の確立
研究期間：継続 R6～R8 担 当 部：生産技術部 協力分担：なし	当初予算（配当） 140千円 [農薬安全対策事業]
<p>研究の目的</p> <p>国の提示する「みどりの食料システム戦略」で定めた「2050年までに化学農薬使用量（リスク換算）を50%低減」という目標の達成に向けた新たな防除体系の構築に、水和硫黄剤の利用が考えられる。これまでの試験から、本剤は展葉10日後のうどんこ病の防除剤としての有効性が示されているが、同時期に防除対象となる開花期前後または落花期以降の病害については未検討である。そこで本試験では水和硫黄剤を主剤とした春期のりんご病害防除体系の効果を検討する。</p>	
<p>試験計画</p> <p>(1) 開花期前後のリンゴ黒星病及び褐斑病に対する防除効果の検討          (2) 落花期以降のリンゴ黒星病及び褐斑病に対する防除効果の検討</p>	
<p>実績・成果</p> <p>(1) リンゴ褐斑病の一次感染期に対し、イオウフロアブルを基幹剤として用いても化学合成殺菌剤を主剤に用いた慣行防除体系と同等の防除効果が得られ、環境負荷低減化資材として実用的であると考えられた(R6)。</p> <p>(2) 展葉期～落花10日後の主剤を水和硫黄剤とした結果、褐斑病については慣行防除体系にやや劣るが防除効果が得られ、環境負荷低減化資材として実用性があると考えられた。黒星病については発病がほとんどみられず、防除効果は評価できなかった(R7)。</p> <p>(3) リンゴ褐斑病の一次感染期（開花直前～落花期）に対し、水和硫黄剤を基幹剤として用いた結果、8月下旬までの褐斑病、黒星病に試験区間差は見られなかった。10月の調査では褐斑病が多発した。9月以降の多雨により褐斑病の二次感染が促されたためと考えられた(R7)。</p>	

番号：10 分類：IV－⑥	リンゴ病虫害防除への土着天敵フル活用のための持続可能な環境負荷低減防除体系の構築
研究期間：継続 R4～R8 担 当 部：生産技術部 協力分担：なし	当初予算（政策） 546千円
<p>研究の目的</p> <p>近年、リンゴ園では耐性菌や抵抗性害虫の出現などが広域で確認されており、現行の農薬散布体系モデルの見直しが必要になっている。また、現行の農薬散布体系では幅広い生物種に影響の強い殺虫剤が多数使用されており、有用生物の減少による各種害虫の誘導多発が観察されるなど、農薬散布一辺倒の病虫害防除の根本的改善も求められている。</p> <p>環境負荷低減に配慮した栽培管理は農業生態系を保全し、土着天敵類等の農業に有用な生物種の増加による生態系サービス（害虫発生抑制効果）が期待できる。特にリンゴは永年性作物であり、樹が長期間にわたり維持管理されるため、生物環境への人為的攪乱が少なく、複雑な立体構造は多くの生物種のすみかになるなど、土着天敵類等を積極的に活用する上で有利である。これまでリンゴ園では、多くの主要害虫に対して土着天敵類が観察され、発生抑制効果が報告されている。そこで、現行の農薬散布体系に比べて殺虫剤と殺菌剤の防除圧を大幅に低減したプロトタイプ of 病虫害防除体系を実践し、そこで生じた問題点を改善することで持続可能な環境負荷低減防除体系モデルを構築する。</p>	
<p>試験計画</p> <p>(1) 土着天敵フル活用のための環境負荷低減病虫害防除体系の構築  (2) 負荷低減防除体系における各種病虫害による実害評価  (3) 指標生物による環境保全評価</p>	
<p>実績・成果</p> <p>(1) 環境負荷低減区における主要な病虫害（シンクイムシ類、ハマキムシ類、キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ、黒星病、斑点落葉病、褐斑病、炭疽病、輪紋病）による葉及び果実への被害は、慣行防除区と同等に少なかった。しかし、6月にリンゴコブアブラムシによる被害が認められたことから、本種に対する防除対策が別途必要と考えられた（R7）。</p> <p>(2) 環境負荷低減区において、ハダニの天敵であるカブリダニ類や、アブラムシ類の天敵ヒラタアブ類やテントウムシ類等が確認された（R4～R7）。</p> <p>(3) 環境負荷低減区ではナミハダニが8月上旬から発生し、9月上旬にピークになったが、カブリダニ類が発生して、9月中旬以降は発生が抑制された（R7）。</p> <p>(4) 環境負荷低減区では、ナミハダニの加害でリンゴ葉の裏面が褐変したが、果実品質（糖度、硬度、酸度）は慣行防除区と同等であった（R5～R7）。</p> <p>(5) 環境指標生物（マルガタゴミムシ、クモ類）の生息数は、慣行防除区よりも環境負荷低減区で多かった（R5～R6）。</p>	

番号：11 分類：Ⅳ－⑥	リンゴのナミハダニ防除における発生源対策を主眼とした新たな殺ダニ剤利用技術の確立
研究期間：終了 R5～R7 担 当 部：生産技術部 協力分担：なし	当初予算（配当） 280千円 [農薬安全対策事業]
<p>研究の目的</p> <p>近年、本県のリンゴ園にはナミハダニの天敵ケナガカブリダニが広く生息するようになってきている。通常、殺ダニ剤散布によるナミハダニの防除は、7～8月の増加に合わせて対処的に実施されているが、発生源となる越冬明け後の個体群に対して実施すれば、増加時期が例年より遅延し、リンゴの生育期後半に発生が多くなるケナガカブリダニによって本種を効果的に防除できる可能性がある。そこで、春期の殺ダニ剤散布によるナミハダニの発生源対策を主眼とした新たな殺ダニ剤の効果的利用技術を確立する。</p>	
<p>試験計画</p> <p>(1) リンゴにおける落花直後の殺ダニ剤散布がナミハダニの発消長に及ぼす影響</p>	
<p>実績・成果</p> <p>(1) 越冬明け後のナミハダニを対象とし、春期に殺ダニ剤を散布した結果、本種の発生時期は例年よりも遅延し、その後はケナガカブリダニによって発生抑制された。このため、年間の殺ダニ剤散布回数を削減できる可能性が確認された（R5～R7）。</p>	

番号：12 分類：Ⅳ－⑥	安価で使用性に優れた国産カブリダニ製剤の開発 (3) リンゴ栽培における製剤評価及び効果的利用方法の検討
研究期間：終了 R5～R7 担 当 部：生産技術部 協力分担：農研機構、石原産業（株）、滋賀県農業 技術振興センター、島根県農業技術センター、静岡県 農林技術研究所果樹研究センター	当初予算（配当） 1,950千円 [農水省委託プロジェクト]
<p>研究の目的</p> <p>ハダニなどの微小害虫類に対する防除技術として、カブリダニ製剤の普及拡大が期待されているが、現状ではカブリダニ製剤の供給のほとんどを欧州からの輸入に依存しており、多額な輸送コストによる「高価格」と、入手までに長時間を要するため欲しいときに使えないこと、他剤との併用や適用害虫の範囲に関する問題が普及の障壁となっている。そこで、国産カブリダニ製剤の開発に向け、ミヤコカブリダニ在来系統について有用形質の評価を進め、海外製剤よりも多様な栽培環境で導入しやすい製剤候補を選出する。</p>	
<p>試験計画</p> <p>(1) リンゴにおける薬剤抵抗性系統ミヤコカブリダニのナミハダニに対する防除効果</p>	
<p>実績・成果</p> <p>(1) 非選択性殺虫剤散布の高防除圧条件下のリンゴほ場では、感受性系統ミヤコカブリダニは利用できないが、抵抗性系統はナミハダニ防除に利用できることが確認された（R5）。</p> <p>(2) リンゴほ場で薬剤抵抗性系統ミヤコカブリダニは、ナミハダニの発生前～発生初期の放飼でも、ナミハダニ防除に利用できることが確認された（R5）。</p> <p>(3) リンゴ樹のナミハダニ増加開始期における薬剤抵抗性系統ミヤコカブリダニ500頭放飼は、3回放飼では程度は低いものの防除効果は認められたが、1回放飼では防除効果が低かった（R6）。</p> <p>(4) リンゴ樹のナミハダニ発生初期における薬剤抵抗性系統ミヤコカブリダニ500頭放飼は、ナミハダニ発生抑制までに時間を要するものの、1回放飼でも3回放飼と同程度の防除効果が認められた（R6）。</p> <p>(5) リンゴ樹のナミハダニ発生初期における薬剤抵抗性系統ミヤコカブリダニ放飼は、100頭1回放飼ではミヤコカブリダニの発生が認められなかったが、300頭1回放飼で本種が多数確認され、ナミハダニに対する防除効果が認められた（R7）。</p>	

番号13 分類：Ⅳ－⑦	ミミズの土壌肥沃度改善機能を農地で活用する-メカニズム解明から 野外実証まで-
研究期間：継続 R3～R8 担 当 部：総務企画室 協力分担：農研機構西日本農業研究センター	当初予算（受託） 150千円 [科学研究費助成事業]
<p>研究の目的</p> <p>科研共同研究課題「環境保全型農法がミミズの土壌肥沃度改善機能に及ぼす効果（H28～31）」では、果樹園に生息するミミズに対する耕起処理、有機物施用、物理的な遮光効果、下草管理や有機栽培の影響を評価してきた。このうち、秋田県の現地リンゴ園ではミミズの生息密度が低い園と高い園が存在し、土壌pH等の要因がミミズの生息密度に影響を及ぼしている可能性が示唆された。そこで、本研究ではリンゴ園におけるpH、土性及び温度等の環境要因とミミズ的生活史パラメータとの関係を明らかにする。</p>	
<p>試験計画</p> <p>(1) 酸性土壌のリンゴ園におけるpH矯正がミミズの生息に及ぼす影響</p>	
<p>実績・成果</p> <p>(1) 2021年に土壌酸性度が高い横手市平鹿町の現地リンゴ園（「ふじ」30a）の試験樹3樹を1区として、酸性矯正区（A区）、酸性矯正区＋ミミズ放飼区（B区）及び無処理区（C区）の3区を設定した。A区とB区には、2021年と22年に幹から半径3mの範囲の地表に苦土石灰を処理して酸性矯正を行った。2022年10月に各樹の幹周辺のみミミズ種構成（サクラミミズが主体）と土壌Ph（Ph5.0程度）を調査し、B区に1樹当たりミミズ200頭を放飼した。</p> <p>(2) 2021年～25年の7月に各樹の新梢長と葉のSpad値を調べ、苦土石灰処理前の樹勢を確認した。（R3～R7）。処理区（A区、B区）と無処理区（C区）の新梢長と葉のSpad値の間に有意差は認められなかった。</p> <p>(3) 2025年10月に、全区で土壌Ph、生息ミミズ数と種構成、処理樹の樹勢等を調査した。これまで得られた調査データから、ミミズの生息数増加に及ぼす土壌酸性矯正の効果を解析している。</p>	

番号：14 分類：必須－①	果樹の生育環境と品質に関する試験	
研究期間：継続 S35～ 担 当 部：品種開発部、生産技術部、かづの果樹センター、天王分場チーム 協力分担：なし	当初予算（－）                      一 千 円	
<p>研究の目的</p> <p>果樹の高品質安定生産を維持するためには、気象変動による生育への影響を的確に捉えることが重要である。このため、果樹の生育状況や果実品質、土壌水分の動態等を定期的に調査し、精度の高い情報を現場に提供する。</p>		
<p>試験計画</p> <p>(1) リンゴ、ブドウ、オウトウ、モモ、ニホンナシ、セイヨウナシの生育調査          場内の定期調査樹等における果実の結実及び生育状況並びに花芽分化の状況を調査する。</p>		
<p>実績・成果</p> <p>(1) 生態は、発芽、展葉、開花始、満開、落花について調査を行った。          (2) 結実は、リンゴ及びニホンナシについて5月に調査を行った。          (3) 果実肥大は、リンゴ、モモ、ニホンナシは6月、ブドウは8月から月2回（1日及び15日）、収穫期まで調査を行った。          (4) 果実品質は、8月1日から月2回（1日及び15日）、収穫期まで調査を行った。          (5) リンゴの花芽分化率は、11月下～12月上旬に調査を行った。          (6) 調査結果は、果樹試ホームページ等で情報提供を行った。          (7) 各調査結果は、P.54～65 参考資料(5)果樹の生態と果実品質を参照。</p>		

番号：15 分類：必須－②	果樹(リンゴ、ナシ、ブドウ)病害虫発生予察事業
研究期間：継続 S40～ 担 当 部：生産技術部、かづの果樹センター、天王分 場チーム、総務企画チーム 協力分担：なし	当初予算（配当）          350千円 [病害虫発生予察事業]
<p>研究の目的</p> <p>病害虫防除は果樹の安定生産と品質向上にとって必要不可欠であり、これを的確かつ効率的に実施するためには精度の高い発生予察情報が必要である。本事業では植物防疫法に基づき、気象、果樹の生育状況及び主要病害虫発生生態の関係を調査・解析し、精度の高い病害虫発生予察情報を提供する。</p>	
<p>試験計画</p> <p>指定及び指定外病害虫発生予察事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指定病害虫           <ul style="list-style-type: none"> <li>リンゴ：斑点落葉病、黒星病、赤星病、シンクイムシ類（モモシンクイガ）、ハダニ類（ナミハダニ、リンゴハダニ）、ハマキムシ類（リンゴコカクモンハマキ、ミダレカクモンハマキ、リンゴモンハマキ）、果樹カメムシ類（クサギカメムシ、チャバネアオカメムシ）</li> <li>ナシ：黒星病、黒斑病、シンクイムシ類（モモシンクイガ）、ハダニ類（ナミハダニ、リンゴハダニ）、ハマキムシ類（リンゴコカクモンハマキ、リンゴモンハマキ）、果樹カメムシ類（クサギカメムシ、チャバネアオカメムシ）、アブラムシ類（ユキヤナギアブラムシ）</li> <li>ブドウ：べと病、灰色かび病、晩腐病</li> </ul> </li> <li>・ 指定外病害虫           <ul style="list-style-type: none"> <li>リンゴ：腐らん病、モニリア病、炭疽病、輪紋病、褐斑病、キンモンホソガ</li> <li>ナシ：輪紋病、ニセナシサビダニ</li> <li>ブドウ：黒とう病、芽枯病、チャノキイロアザミウマ</li> <li>その他病害虫：すす点病、すす斑病、胴枯病、せん孔細菌病、幼果菌核病、クイムシ類、コガネムシ類、ナシヒメシンクイ、スモモヒメシンクイ、アブラムシ類、クビアカスカシバ、ヒメボクトウ、モモハモグリガ、ブドウトラカミキリ、ツマグロアオカスミカメなど</li> </ul> </li> </ul>	

番号：16 分類：必須－③	新農薬の効果確認及び実用化試験
研究期間：新規 R7 担当部：生産技術部、品種開発部、かづの果樹センター、天王分場チーム、総務企画チーム 協力分担：なし	当初予算（受託） 13,936千円
<p>研究の目的</p> <p>果樹における新規の殺菌剤と殺虫剤の防除効果及び薬害の有無、および新規植物成長調節剤、除草剤、土壌改良資材等の実用性を検討する。</p>	
<p>試験計画</p> <p>(1) リンゴ関係薬剤          ①殺菌剤試験 8病害 13剤、②殺虫剤試験 3害虫 3剤、③植物成長調節剤 1剤 ④残留性試験（除草剤） 3剤</p> <p>(2) ナシ関係薬剤          ①殺菌剤試験 2病害 5剤、②殺虫剤試験 2害虫 5剤、③除草剤 2剤</p> <p>(3) ブドウ関係薬剤          ①殺菌剤試験 4病害 12剤（うち2剤は薬害試験）、②残留性試験 1剤、③除草剤 1剤</p> <p>(4) オウトウ関係薬剤          ①殺菌剤試験 2病害 4剤</p> <p>(5) モモ関係薬剤          ①殺菌剤試験 2病害 8剤、②土壌改良資材 1剤</p>	
<p>実績・成果</p> <p>(1) リンゴでは、殺菌剤では黒星病、赤星病、うどんこ病、斑点落葉病、褐斑病、炭そ病、すす点病・すす斑病および輪紋病、殺虫剤ではキンモンホソガ、ギンモンハモグリガおよびハスモンヨトウを対象に防除効果及び薬害の有無を評価した。</p> <p>(2) ナシでは、殺菌剤では黒星病および赤星病、殺虫剤ではアザミウマ類およびニセナシサビダニを対象に防除効果及び薬害の有無を評価した。</p> <p>(3) ブドウでは、灰色かび病、晩腐病、べと病を対象に殺菌剤の防除効果及び薬害の有無を評価した。また、殺菌剤2剤について薬害試験を行った。</p> <p>(4) オウトウでは、幼果菌核病、褐色せん孔病を対象に殺菌剤の防除効果及び薬害の有無を評価した。</p> <p>(5) モモでは、せん孔細菌病と灰星病を対象に殺菌剤の防除効果及び薬害の有無を評価した。</p> <p>(6) 除草剤は、ナシおよびブドウで除草効果と薬害の有無を評価した。またリンゴで残留性試験を実施した。</p> <p>(7) 植物生育調節剤は、リンゴで展着剤の効果を判定した。</p>	

## 6 主要行事・会議等

### (1) 主催行事・会議等

行事・会議	開催月日	開催場所
リンゴ栽培基礎講座（全10回）	R7.4.17～R8.2.26	果樹試験場圃場他
初心者のための摘果講習会	R7.5.29	果樹試験場圃場他
現地ふれあい果樹試験場	R7.7.8	由利本荘市
〃	R7.7.9	大仙市
フロンティア育成研修中間報告会	R7.7.24	果樹試験場
果樹試験場研究運営協議会	R7.8.4	果樹試験場
リンゴ夏期管理講座	R7.8.21	果樹試験場圃場他
果樹試験場参観デー	R7.9.3	果樹試験場圃場他
リンゴ冬期剪定講座	R8.2.24	果樹試験場圃場他
フロンティア育成研修プロジェクト等発表会	R8.3.5	果樹試験場

### (2) 研究管理のための場内会議・検討会

会議・検討会	開催月日	開催場所
本場・分場会議	R7.4.9	果樹試験場
R7新規課題検討会	R7.5.21	果樹試験場
R6未了試験成績検討会	R7.6.24	果樹試験場
R7試験成績検討会	R8.1.20-21	果樹試験場
R8試験研究設計検討会	R8.3.3-4	果樹試験場

### (3) 場内に設置されている委員会等

委員会等の名称	統括者	担当者
機種選定審査会	中尾 学	舟山 健・佐藤 守・船山瑞樹・高橋 功・ 照井 真・熊谷 一・長澤正士
圃場管理委員会	佐藤 裕	高木原弥生・加賀谷恭一・東海林宏紀・中澤みどり・小林香代子
定期刊行物編集委員会	舟山 健	松井 彰・佐藤 裕・高橋 功・照井 真
ホームページ運営委員会	舟山 健	中澤みどり・伊藤まり・佐藤一磨
図書・気象委員会	篠田亜美	松井 彰・阿部紀之
異常気象・気象災害対策委員会	中尾 学	舟山 健・船山瑞樹・長崎仁甚・中澤みどり・ 小林香代子・松山奈央

## 7 技術支援

### (1) 委員委嘱

委員会・協議会の名称	役 職	職 名	氏 名
秋田県植物防疫協会	特別会員	場 長	中尾 学
	幹 事	研究員	高橋佳大
秋田県農業共済組合連合会損害評価会果樹共済部会	部会長	場 長	中尾 学
	損害評価員	主任研究員	長澤正士
	〃	主任研究員	小林香代子
	〃	主任研究員	後藤加寿子
秋田県農協施肥合理化対策協議会	〃	研究員	長崎仁甚
	委 員	場 長	中尾 学
	常任委員	主任研究員	中澤みどり
秋田県農作物品種対策協議会	委 員	場 長	中尾 学
	幹 事	部 長	高橋 功
秋田県農作物病害虫・雑草防除基準策定委員会	委 員	場 長	中尾 学
	委 員	部 長	照井 真
	幹 事	主任研究員	長澤正士
	〃	主任研究員	小林香代子
	〃	研究員	高橋佳大
	〃	技 師	阿部紀之
受託農薬選定委員会	委 員	研究員	佐藤一磨
秋田県特別栽培・農産物認証制度検討委員会	委 員	主任研究員	中澤みどり
	〃	研究員	高橋佳大
有機農業推進委員会	委 員	主任研究員	中澤みどり
第147回秋田県種苗交換会審査員	審査部長	部 長	高橋 功
	審査員	部 長	照井 真
	〃	上席研究員	熊谷 一
	〃	主任研究員	中澤みどり
	〃	主任研究員	長澤正士
	〃	主任研究員	小林香代子
	〃	主任研究員	後藤加寿子
	〃	主任研究員	松山奈央
	〃	研究員	長崎仁甚
	〃	研究員	高橋佳大
	〃	研究員	渡会直人
	〃	技 師	伊藤まり
	〃	技 師	篠田亜美
	〃	技 師	佐藤一磨
秋田果樹通信編集委員会	〃	技 師	阿部紀之
	委 員	場 長	中尾 学
	〃	室 長	舟山 健
	〃	部 長	高橋 功
〃	〃	部 長	照井 真

## (2) 講師派遣

### 【本 場】

年.月.日	主 催 者	内 容	担当部・チーム	派遣職員
R7 4.25	秋田県果樹協会	共防調査員会議	生産技術部	小林香代子
			〃	高橋佳大
			〃	阿部紀之
5.16	秋田県立大学	「秋田農林水産学」講義	場長	中尾 学
5.30	秋田県果樹協会	共防調査員会議	生産技術部	小林香代子
			〃	高橋佳大
			〃	阿部紀之
6.10	J A秋田ふるさとぶどう部会	ぶどう花前新梢管理講習会	品種開発部	中澤みどり
6.27	秋田県果樹協会	共防調査員会議	生産技術部	小林香代子
			〃	高橋佳大
			〃	阿部紀之
6.30	J A秋田ふるさとりんご部会よこ て支部	病害虫発生予察講習会	生産技術部	高橋佳大
			〃	阿部紀之
6.30	J A秋田ふるさと共防連絡協議会	共防連総会・防除中間実績検討会	生産技術部	照井 真
			〃	高橋佳大
			〃	阿部紀之
			総務企画チーム	佐藤 裕
7. 7	J A秋田ふるさとぶどう部会	ぶどう開花後の栽培管理講習会	品種開発部	中澤みどり
7.25	増田共防連	夏季研修会	生産技術部	舟山 健
7.31	秋田県果樹協会	共防調査員会議	生産技術部	小林香代子
			〃	高橋佳大
			〃	阿部紀之
8. 5	J A秋田ふるさとりんご部会 平鹿中央支部	病害虫防除対策会議	生産技術部	照井 真
			〃	高橋佳大
			〃	阿部紀之
			総務企画チーム	佐藤 裕
8.21	北秋田地域振興局	果樹病害虫研修	生産技術部	高橋佳大
22			総務企画チーム	佐藤 裕
9. 1	秋田県果樹協会	共防調査員会議	生産技術部	小林香代子
			〃	高橋佳大
			〃	阿部紀之
10 31	りんご秋田19号普及推進会	現地検討会	品種開発部	高橋 功
11. 4	J A秋田ふるさとぶどう部会	ぶどう剪定講習会	品種開発部	中澤みどり
11. 7	仙北種なし大粒ぶどう部会	ぶどう剪定講習会	総務企画チーム	船山瑞樹
11.25	雄勝地域振興局	若手農業者視察研究（秋田19号）	品種開発部	高橋 功
12.11	県南ブロックJA青年部及び県南地 区商工会青年部交流会	果樹胴枯細菌病対策とスマートグラ ス最新動向	総務企画チーム	佐藤 裕
			生産技術部	小林香代子
12.18	JA秋田ふるさとりんご部会青年部	銀世界りんご王者決定戦審査	場長	中尾 学
11. 4	J A秋田ふるさとぶどう部会	ぶどう剪定講習会	品種開発部	中澤みどり
11. 7	仙北種なし大粒ぶどう部会	ぶどう剪定講習会	総務企画チーム	船山瑞樹
11.25	雄勝地域振興局	若手農業者視察研究（秋田19号）	品種開発部	高橋 功
12.11	県南ブロックJA青年部及び県南地 区商工会青年部交流会	果樹胴枯細菌病対策とスマートグラ ス最新動向	総務企画チーム	佐藤 裕
			生産技術部	小林香代子

年.月.日	主 催 者	内 容	担当部・チーム	派遣職員
12.18	JA秋田ふるさとりんご部会青年部	銀世界りんご王者決定戦審査	場長	中尾 学
R8. 1. 6	JAふるさとりんご部会	防除暦作成会議	生産技術部	照井 真
			〃	小林香代子
			〃	高橋佳大
			〃	佐藤一磨
			〃	阿部紀之
			総務企画チーム	佐藤 裕
1. 6	JAふるさとさくらんぼ部会	防除暦作成会議	生産技術部	照井 真
			〃	小林香代子
			〃	高橋佳大
			〃	佐藤一磨
			〃	阿部紀之
			総務企画チーム	佐藤 裕
1. 7	JAふるさともも部会	防除暦作成会議	生産技術部	照井 真
			〃	小林香代子
			〃	高橋佳大
			〃	佐藤一磨
			〃	阿部紀之
			総務企画チーム	佐藤 裕
1. 7	JAふるさとふどう部会	防除暦作成会議	生産技術部	照井 真
			〃	小林香代子
			〃	高橋佳大
			〃	佐藤一磨
			〃	阿部紀之
			総務企画チーム	佐藤 裕
1.16	JAこまち桜桃部会・果樹部会	防除暦作成会議	生産技術部	照井 真
			〃	高橋佳大
			〃	阿部紀之
			総務企画チーム	佐藤 裕
1.29	JAふるさと共同防除組合連絡協議会	りんご病虫害防除暦全体説明会	生産技術部	照井 真
			〃	高橋佳大
			〃	阿部紀之
			総務企画チーム	佐藤 裕
2.3-4	県南地区園芸戦略対策協議会	リンゴ冬期講座	生産技術部	小林香代子
			〃	高橋佳大
			〃	阿部紀之
			総務企画チーム	佐藤 裕
2. 6	JAこまち桜桃部会・果樹部会	防除暦説明会	生産技術部	照井 真
			〃	高橋佳大
			〃	阿部紀之
			総務企画チーム	佐藤 裕
2.17	中央部連絡協議会	青年部学習会	生産技術部	高橋佳大

年.月.日	主 催 者	内 容	担当部・チーム	派遣職員
2.24	J Aこまち果樹部会	りんご防除暦作成会議	生産技術部 " 総務企画チーム	照井 真 高橋佳大 佐藤 裕
2.26	秋田県果樹協会	果樹講座（県北地区）	生産技術部 総務企画チーム	高橋佳大 佐藤 裕
3. 4	農林水産部園芸振興課	りんご産地発展に向けた技術研修会	生産技術部	照井 真
3. 31	秋田県果樹協会	共防調査員会議	生産技術部 " "	小林香代子 高橋佳大 阿部紀之

### 【かづの果樹センター】

年.月.日	主 催 者	内 容	担当部・班	派遣職員
R7.4. 4	秋田県果樹協会	県北共防調査員会議	かづの果セ "	熊谷 一 長崎仁甚
4. 8	J Aかづの北限の桃生産部会	モモ栽培講習会（摘蕾）	かづの果セ "	熊谷 一 長崎仁甚
4. 9	鹿角果樹産地推進協議会	果樹栽培サポーター研修（モモ摘蕾）	かづの果セ "	熊谷 一 長崎仁甚
4.22	J Aかづの北限の桃生産部会	モモ栽培講習会（人工受粉）	かづの果セ "	熊谷 一 長崎仁甚
4.22	J Aかづのりんご生産部会	りんご栽培講習会（人工受粉）	かづの果セ "	熊谷 一 長崎仁甚
4.28	秋田県果樹協会	県北共防調査員会議	かづの果セ "	熊谷 一 長崎仁甚
5. 9	鹿角地域果樹産地協議会	果樹栽培サポーター研修（りんご・モモ	かづの果セ	長崎仁甚
5.28	鹿角ブドウ栽培研究会	栽培講習会（新梢管理・花穂形成）	かづの果セ	長崎仁甚
5.26	J Aかづの北限の桃生産部会	モモ栽培講習会（摘果）	かづの果セ	長崎仁甚
5.29	鹿角地域果樹産地協議会	果樹栽培サポーター研修（モモ摘果）	かづの果セ	長崎仁甚
6. 3	秋田県果樹協会	県北部共防調査員会議	かづの果セ	熊谷 一
6.12	J Aかづのりんご生産部会	りんご栽培講習会（摘果）	かづの果セ "	熊谷 一 長崎仁甚
6.16	鹿角地域果樹産地協議会	果樹栽培サポーター研修（りんご摘果）	かづの果セ	長崎仁甚
6.30	秋田県果樹協会	県北部共防調査員会議	かづの果セ "	熊谷 一 長崎仁甚
7. 2	鹿角ブドウ栽培研究会	栽培講習会（摘粒）	かづの果セ	長崎仁甚
7. 8	J Aかづの北限の桃生産部会	モモ栽培講習会（新梢管理及び修正摘果）	かづの果セ	長崎仁甚
7.18	鹿角地域果樹産地協議会	果樹栽培サポーター研修（りんご・モモ 袋かけ等）	かづの果セ	長崎仁甚
8. 2	秋田県果樹協会	県北部共防調査員会議	かづの果セ "	熊谷 一 長崎仁甚
8. 7	J Aかづの北限の桃生産部会	「あかつき」出荷目揃い会	かづの果セ	長崎仁甚
8.12	J Aかづの北限の桃生産部会	モモ収穫講習会	かづの果セ	長崎仁甚
8.18	鹿角地域果樹産地協議会	果樹栽培サポーター研修（モモ早生種収 穫）	かづの果セ "	熊谷 一 長崎仁甚

年.月.日	主 催 者	内 容	担当部・班	派遣職員
8.18 ～8.19	鹿角ブドウ栽培研究会	先進地視察研修	かづの果セ	熊谷 一
8.26	J A かづの北限の桃生産部会	「川中島白桃」出荷目揃い会	かづの果セ	長崎仁甚
9. 3	鹿角地域果樹産地協議会	果樹栽培サポーター研修（モモ晩生種収穫）	かづの果セ	長崎仁甚
9.19	J A かづの北限の桃生産部会	モモ栽培講習会（秋季管理）	かづの果セ	熊谷 一
			〃	長崎仁甚
10. 3	鹿角地域果樹産地協議会	果樹栽培サポーター研修（リンゴ摘葉）	かづの果セ	長崎仁甚
10. 7	鹿角ブドウ栽培研究会	試食検討会	かづの果セ	熊谷 一
			〃	長崎仁甚
11.13	鹿角地域果樹産地協議会	果樹栽培サポーター研修（リンゴ収穫）	かづの果セ	熊谷 一
			〃	長崎仁甚
11.19	鹿角ブドウ栽培研究会	剪定講習会	かづの果セ	熊谷 一
			〃	長崎仁甚
R8.1.22	J A かづの北限の桃生産部会	実績検討会及び総会	かづの果セ	長崎仁甚
1.26	J A かづのりんご生産部会	リンゴ剪定講習会	かづの果セ	長崎仁甚
1.29	J A かづのりんご生産部会	リンゴ「秋田紅あかり」剪定講習会	かづの果セ	長崎仁甚
2.19	鹿角地域果樹産地協議会	果樹栽培サポーター研修（病害虫防除・剪定）	かづの果セ	長崎仁甚
2.26	秋田県果樹協会	果樹講座	かづの果セ	熊谷 一
			〃	長崎仁甚
2.27	J A かづの北限の桃生産部会	モモ剪定講習会	かづの果セ	熊谷 一
			〃	長崎仁甚
3.11	鹿角ブドウ栽培研究会	新規作付け希望者説明会	かづの果セ	熊谷 一
3.19	J A かづのりんご生産部会	実績検討会及び総会	かづの果セ	長崎仁甚
			〃	

### 【天王分場チーム】

年.月.日	主 催 者	内 容	担当部・チーム	派遣職員
R7.4.14	中央部連絡協議会	4月例会(天王分場)	場 長	中尾 学
			天王分場チーム	長澤正士
			〃	松山奈央
			〃	渡会直人
5.30	中央部連絡協議会	5月例会(天王分場)	天王分場チーム	長澤正士
			〃	松山奈央
			〃	渡会直人
6.30	中央部連絡協議会	6月例会(天王分場)	天王分場チーム	長澤正士
			〃	松山奈央
			〃	渡会直人
7.7	J A 秋田なまはげ果樹部会	現地圃場巡回	天王分場チーム	渡会直人

年.月.日	主催者	内 容	担当部・チーム	派遣職員
7.30	中央部連絡協議会	現地研修会(能代市)	場 長 天王分場チーム " "	中尾 学 長澤正士 松山奈央 渡会直人
8. 5	園芸振興課	スマート農業研修会(男鹿市)	天王分場チーム " "	長澤正士 松山奈央 渡会直人
8.19	J A秋田なまはげ果樹部会	秋田地区ナシ目揃え会	天王分場チーム	長澤正士
9. 9	生涯学習課	県庁出前講座(秋田市)	天王分場チーム	渡会直人
11.20	J A秋田なまはげ果樹部会	ブドウ剪定講習会(男鹿市)	天王分場チーム	長澤正士
11.25	J A秋田なまはげ果樹部会	和梨剪定講習会(男鹿市)	天王分場チーム "	長澤正士 松山奈央
11.25	J A秋田なまはげ果樹部会	和梨剪定講習会(潟上市)	天王分場チーム "	長澤正士 松山奈央
12.12	中央部連絡協議会	反省会(天王分場)	場 長 天王分場チーム " "	中尾 学 長澤正士 松山奈央 渡会直人
12.16	J Aあきた湖東果樹部会	梨剪定講習会(潟上市)	天王分場チーム	松山奈央
12.23	J A秋田なまはげ果樹部会	和梨防除暦作成会議(天王分場)	天王分場チーム	長澤正士
R8.1.8	J A秋田なまはげ果樹部会	和梨防除暦説明会(男鹿市)	天王分場チーム	渡会直人
1. 8	J A秋田なまはげ果樹部会	和梨防除暦説明会(潟上市)	天王分場チーム	長澤正士
1. 9	J A秋田なまはげ果樹部会	秋田地区防除暦作成会議(天王分場)	天王分場チーム	長澤正士
1.13	J A秋田なまはげ果樹部会	ブドウ防除暦作成会議(天王分場)	天王分場チーム "	長澤正士 渡会直人
1.14	園芸振興課	大館市中山地区トレーニング <sup>®</sup> ファーム整備に係る担当者会議	天王分場チーム	長澤正士
1.15	J Aあきた北果樹部会	剪定講習会(大館市)	天王分場チーム	松山奈央
2.10	J Aあきた湖東果樹部会	梨防除暦説明会(潟上市)	天王分場チーム	渡会直人
2.12	J A秋田なまはげ果樹部会	防除暦説明会(潟上市)	天王分場チーム	渡会直人
3.10	園芸振興課	大館市中山地区トレーニング <sup>®</sup> ファーム整備に係る第2回担当者会議	天王分場チーム	長澤正士
3.11	秋田県果樹協会	中央地区果樹講座	天王分場チーム "	長澤正士 松山奈央 渡会直人

### (3) 担い手受入研修

#### ①秋田アグリフロンティア育成研修

入場年	研修生氏名	市町村	専攻	研修内容（プロジェクト課題等）
R6年	菅 秀平	湯沢市	果樹	・シャインマスカットの房作りの省力化
〃	栗井 美穂	鹿角市	果樹	・リンゴの着果量の違いによる果実品質への影響、モモの着果位置の違いによる果実品質への影響
〃	鈴木 媛由	鹿角市	果樹	・現地研修（鹿角市 中村園）：モモとリンゴの摘果作業を省力化する方法の模索、雇用労働環境のあり方の検証
R7年	石井 大輝	五城目町	果樹	・果樹の栽培管理技術一般（基礎研修）

#### ②リンゴ栽培基礎講座

リンゴ栽培の経験が浅い中高年や若手生産者、専業農家の家族等を対象に、基礎知識や技術習得を目的に、座学や実習を月1回程度、年間10回の講座として開催した。

(1) 受講者：一般受講者18名

(2) 講師：果樹試験場研究員

(3) 研修内容

- ① リンゴ栽培の概要（4月17日）
- ② 芽の種類、結果習性、摘花、人工受粉について（5月1日）
- ③ 摘果（5月29日）
- ④ 病虫害防除の基礎、見分け方（6月26日）
- ⑤ 樹相・土壌診断と施肥（7月10日）
- ⑥ 温暖化の影響と高温対策、着色管理（9月11日）
- ⑦ 収穫期判定と収穫の注意点、越冬対策（10月23日）
- ⑧ 花芽分化調査と今後の対応（11月27日）
- ⑨ 防除暦の要点、農薬の調整、注意点について（1月22日）
- ⑩ 剪定の基礎（2月26日）

### ③職場体験研修及びインターンシップ研修

---

県機関において就業体験の機会を設け、学生（又は生徒）の就業意識の向上及び県政に対する理解の増進を図るとを目的に、果樹試験場において職場体験研修やインターンシップ研修を行う。

---

#### 1 職場体験研修

##### 【本場】

- (1) 5月12日 平鹿中学校2年生 4名
- (2) 8月7日 十文字中学校2年生 2名

（主な研修内容）

- ・果樹試験場庁舎案内及び業務概要の説明
- ・品種開発部及び生産技術部関係業務体験研修
- ・場長との意見交換（果試研修の感想等）

- (3) 7月31日～8月1日 横手高校2年生 1名

（主な研修内容）

- ・果樹試験場庁舎案内及び業務概要、秋田県果樹振興計画の説明
- ・品種開発部及び生産技術部関係業務体験研修

- (4) 9月1日～9月3日 大学生4名、9月16日～9月18日 大学生1名

（主な研修内容）

- ・果樹試験場庁舎案内及び業務概要、秋田県果樹振興計画の説明
- ・品種開発部及び生産技術部の研究概要説明と調査・分析業務の体験研修
- ・現地の法人や生産者との意見交換

##### 【天王分場チーム】

- (1) 10月22日 天王南中学 1年生 32名

（主な研修内容）

- ・地域の産業について（ニホンナシ）

##### 【かづの果樹センター】

なし

---

## 8 研究成果の発表・広報

### (1) 主要刊行物の発行状況

誌名	発行時期	部数等
令和6年度業務報告	令和7年6月	160部

### (2) 実用化できる試験研究成果

事項	内 容	研究期間	担 当 者
普及	リンゴのナミハダニに対するケナガカブリダニと気門封鎖剤の併用による防除効果	令和2～4年度	舟山 健
参考	県南部におけるモモ「夏かんろ」および「真美」の果実特性	令和3～12年度	篠田 亜美
参考	スマートグラスを用いたリンゴ摘果技術習得・補助システムの開発	令和4～7年度	小林 香代子
参考	2024年に県内各産地から採集したリンゴ褐斑病菌のDMI剤感受性	令和2～6年度	佐藤 裕

### (3) 果樹試験場研究成果発表会（9/6果試参観デーにおける発表）

発表課題名	発表者
・多雪地帯におけるリンゴジョイント栽培の生産性評価	品種開発部 主任研究員 後藤加寿子
・スマートグラスを用いたリンゴ摘果技術の習得・補助システムの開発	生産技術部 主任研究員 小林香代子
・リンゴ黄腐病防除へのペルクート水和剤の実用化	総務企画チーム・専門員 佐藤裕

### (4) 学会誌・研究会誌等（令和7年度掲載）

論文名	執筆者	発行誌名	巻・号・項	年・月
Genetic divergence within <i>Trissolcus japonicus</i> (Hymenoptera: Scelionidae) in its native range	Kazunori Matsuo, Nakatada Wachi, Akeo Iwasaki, Ken Funayama et al.	Applied Entomology and Zoology	Volume 60 : 329-339	R7.9
秋田県内における DMI 剤耐性リンゴ褐斑病菌の発生分布	佐藤 裕・阿部 紀之	北日本病害虫研究会報	第 76 号 : 58-60.	R7.12
リンゴ園における落花期の殺ダニ剤散布がナミハダニの発生消長に及ぼす影響	舟山 健	〃	第 76 号 : 128-130.	〃
多雪地帯における主枝を積雪深より高く接合したリンゴジョイント栽培の生産性評価	後藤加寿子・小林香代子・高橋 功	東北農業研究	78号:37-38	R7.12

### (5) 学会発表・研究会発表（令和7年度発表）

学会等の名称	年・月・日	開催場所	題 名	発表者
東北農業試験研究発表会	R7.7.31	盛岡市	多雪地帯における主枝を積雪深より高く接合したリンゴジョイント栽培の生産性評価	後藤加寿子・小林香代子・高橋 功
寒冷地果樹研究会	R8.1.30	盛岡市	スマートグラスを用いたリンゴ摘果技術の習得・補助システムの開発	小林香代子
あきた産学官連携フォーラム2025	R7.12.4	秋田市	スマートグラスを用いたリンゴ摘果技術の習得補助システムの開発	小林香代子

## (6) 雑誌等への掲載

誌名等	掲載年月日	内 容	執筆者
果実日本	R7年11月15日	リンゴ開心形樹形を豪雪から守る支柱設置方法（横手モデル）	後藤加寿子
農業新時代 No.7	R8年2月1日	ベルクートをを用いたリンゴ黄腐病の防除対策について	佐藤 裕

## (7) 新聞等への掲載

誌名等	掲載年月日	内 容	執筆者
農業共済新聞	R7. 9 3	果樹栽培のスマート農機活用	小林香代子
	R8. 2. 4	モモ「さくら」における台木別凍害発生程度	長崎仁甚
	R8. 3. 4	リンゴ黄腐病に対する薬剤防除法	佐藤 裕
秋田果樹通信	R7. 4. 8	オウトウの農作業について 各樹種の定点調査一覧表	照井 真 舟山 健
	4. 22	就任のあいさつ リンゴの結実確保について ナシの結実確保について 各樹種の定点調査一覧表 リンゴ腐らん病の生態と防除について	中尾 学 小林香代子 長澤正士 舟山 健 佐藤 裕
	5. 8	モモの農作業について 各樹種の定点調査一覧表	長崎仁甚 舟山 健
	5. 22	シンクイムシ類の生態と防除対策について 各樹種の定点調査一覧表	高橋佳大 舟山 健
	6. 8	モモの農作業について 各樹種の定点調査一覧表	長崎仁甚 舟山 健
	6. 22	各樹種の定点調査一覧表 ニホンナシのハダニ類防除について	舟山 健 渡会直人
	7. 8	リンゴの農作業について モモの農作業について 各樹種の定点調査一覧表	小林香代子 長崎仁甚 舟山 健
	7. 22	オウトウの褐色せん孔病について 台風の襲来に備えて 各樹種の定点調査一覧表	佐藤 裕 長澤正士 舟山 健
	8. 8	リンゴの農作業について モモの農作業について	小林香代子 長崎仁甚
	8. 22	果樹の後期防除について（リンゴ） 〃 （ナシ）	阿部紀之 渡会直人
	9. 8	リンゴの農作業について モモの農作業について シャインマスカットの収穫の留意点	小林香代子 長崎仁甚 篠田亜美
	9. 22	リンゴ中晩生種の収穫の留意点 ニホンナシの中晩生種の収穫の留意点 各樹種の定点調査一覧表	後藤加寿子 松山奈央 舟山 健
	10. 8	リンゴの農作業について モモの農作業について 各樹種の定点調査一覧表	小林香代子 長崎仁甚 舟山 健
	10. 22	令和7年度東北農業試験研究推進会議果樹推進部会東北果樹研究会 に参加して 各樹種の定点調査一覧表	篠田亜美 舟山 健

誌名等	掲載年月日	内 容	執 筆 者
	11. 8	果樹越冬対策	高橋 功
	11. 22	今年のおウトウ栽培を振り返って 今年のみも栽培を振り返って	照井 真 長崎仁甚
	12. 8	今年のプロウ栽培を振り返って 今年のみホンナシ栽培を振り返って	中澤みどり 長澤正士
	12. 22	今年のリソゴ栽培を振り返って（県南部） 今年のリソゴ栽培を振り返って（県北部）	小林香代子 熊谷 一
	1. 8	年頭のご挨拶	中尾 学
	1. 22	リソゴの花芽の分化状況について みホンナシの整枝・剪定について 樹園地の雪害対策	伊藤まり 松山奈央 後藤加寿子
	2. 22	ももの整枝・剪定について 実用化できる試験研究課題「リソゴ黄腐病菌による果実の黒斑症 状に対するベルコート水和剤の実用化」	篠田亜美 佐藤 裕
	3. 8	リソゴとナシの休眠期防除について ナシの花粉確保対策について	高橋佳大 長澤正士
	3. 22	果樹苗木の植え付けについて 実用化できる試験研究課題「リソゴの野生小型訪花昆虫による受粉 効果」	佐藤一磨 舟山 健

## (8) ホームページへの情報掲載

年・月	内	容
R7. 4	初期生態に関する情報 4月の栽培管理に関する情報 リンゴ・ニホンナシの開花予測に関する情報	
5	初期生態に関する情報 5月の栽培管理に関する情報 リンゴ・ニホンナシ結実調査結果	
6	初期生態に関する情報 6月の栽培管理に関する情報 生育状況（6月2日、16日調査） リンゴ黒星病防除対策情報 モモの硬核期に関する情報	
7	生育状況（7月1日、15日調査） 7月の栽培管理に関する情報 モモの硬核期に関する情報（7月11日） 秋田県果樹試験場業務概要 果樹試験場参観デーに関する情報	
8	生育状況（8月1日、15日調査） 8月の栽培管理に関する情報 実用化できる試験研究 秋田県果樹試験場要覧	
9	生育状況（9月1日、16日調査） 9月の栽培管理に関する情報 一般競争入札に関する情報	
10	生育状況（10月1日、15日、31日調査）	
11	生育状況（11月14日各品種収穫時調査）	
12	令和8年産リンゴの花芽分化状況	
R8. 1	果樹開花日予測システムに関する情報 令和8年度リンゴ栽培基礎講座の開催に関するお知らせ	
3	リンゴ・ニホンナシの消雪状況、発芽期に関する情報	

## 9 職員の研修

研修の名称(期間)	主催	研修内容	所属	氏名
新規採用職員研修 前期 (R7.4.8～10) 後期 (R7.10.8～10)	自治研修所	県・市町村の新規採用職員を 対象とした地方自治、公務員 倫理、接遇など	品種開発部	伊藤まり
公務員倫理研修 (R7.4.25)	建設部技術管理課	利害関係者との間で禁止され ている行為などの公務員倫理 に関する研修		全職員
役職段階別指定研修「人 事評価者研修」 (R7.5.14)	自治研修所	人事評価制度の目的や仕組み と公正かつ客観的な評価方法 について	生産技術部	照井 真
役職段階別指定研修「主 査級職員研修」 (R7.5.22～23)	自治研修所	役付き職員として上司の補佐 やメンバーへの助言・指導等 の役割について	天王分場チーム	松山奈央
組織力向上研修「キャリ ア開発研修」 (R7.6.17～18)	自治研修所	ストレス解消法や自らの能力 や仕事観・価値観の把握など	生産技術部	佐藤一磨
コンプライアンス研修 (R7.6.18)	総務部人事課	職員の倫理保持に関する指針 等の一部改正について		全職員
普及手法体系化研修 (R7.6.19、7.2、7.23、 7.30、8.6)	園芸振興課	模擬試験等を通じた普及指導 員資格試験に臨むためのレデ ィネス形成	天王分場チーム 生産技術部	渡会直人 高橋佳大 佐藤一磨
役職段階別指定研修「3 年目研修」 (R7.6.26～27)	自治研修所	問題解決の進め方、問題解決 に向けたコミュニケーション など	品種開発部	篠田亜美
安全運転管理者 講習会 (R7.7.8)	県公安委員会	交通防止対策(未然に防ぐた めの行動)、安全運転管理実 務、交通事故防止実務	総務企画チーム	佐藤 守
役職段階別指定研修「管 理監督職員研修」 (R7.7.15～16)	自治研修所	仕事と人のマネジメントなど	生産技術部	照井 真
役職段階別指定研修「課 長級職員研修」 (R7.7.17～18)	自治研修所	マネジメントやリーダーシッ プなど	総務企画室	舟山 健
デジタル化リーダー育成 研修 (R6.10.6)	デジタル政策推進課	ChatGPTの利用法など	品種開発部	中澤みどり

研修の名称(期間)	主催	研修内容	所属	氏名
能力開発研修(データの 見方・活かし方) (R7.10.28)	自治研修所	データ分析の基礎能力の養 成、データリテラシーの向上 など	品種開発部	篠田亜美
組織力向上研修「現業職 員研修」 (R7.11.5)	自治研修所	務員としてのルールや職場の 環境作りなど	総務企画室 天王分場チーム	米田慶栄 後藤翔太
普及手法体系化研修「口 述試験対策」 (R7.11.18)	園芸振興課	口述試験の心得や留意事項、 協同農業普及事業の理念など	天王分場チーム 生産技術部	渡会直人 高橋佳大
令和7年度デジタル実践 人材育成研修 (R7.11.19)	デジタル政策推進課	情報セキュリティおよびGoog le Apps Scriptの活用方法に ついて	品種開発部	篠田亜美 伊藤まり
ニホンナシ先進地研修 (R8.2.24~25)	神奈川県農業技術セ ンター、農研機構果 樹・茶業研究所	ニホンナシのV字ジョイント 栽培に関する研修	天王分場チーム	渡会直人
ブドウ先進地研修 (R8.3.2~3)	愛知県農業総合試験 場	シャインマスカット未開花症 対策技術に関する研修	品種開発部 生産技術部	篠田亜美 阿部紀之

## 10 視察・見学対応

区分	年.月.日	視察・見学者	人数
本場	R7. 5. 8	浅舞感恩講保育園(リンゴの花摘み体験)	15
	7. 1	増田小学校(園地視察研修)	30
	7.23	J A津軽みらい(園地視察研修)	25
	8.20	加美郡りんご協議会(園地視察研修)	15
	8.27	浅舞感恩講保育園(リンゴのシール貼り体験)	15
	10. 1	浅舞感恩講保育園(リンゴの収穫体験)	15
	10.16	亀田地区交流センター運営協議会(園地視察研修)	20
	11.28	丸果秋田県青果株式会社(園地視察研修)	3
		<b>計</b>	<b>138</b>
かづの果樹センター	7.22	毛馬内保育園(ブルーベリー摘み取り体験)	42
	7.23	さくら保育園(ブルーベリー摘み取り体験)	37
	8.26	北鷹高校(施設視察)	27
	10.15	毛馬内保育園(リンゴ収穫体験)	42
	11.16	錦木保育園(リンゴ収穫体験)	25
	<b>計</b>	<b>173</b>	
天王分場班	10.22	潟上市立天王南中学校(総合学習)	35
	<b>計</b>	<b>35</b>	

## 参考資料

### (1) 令和7年半旬別気象表

県南部（果樹試験場 本場）

- ・ 位置 横手市平鹿町醍醐字街道下65
- ・ 測点 東経140度32分、北緯39度14分、海拔85m
- ・ 平年値 平成27年～令和6年

項目		平均気温(℃)		最高気温(℃)		最低気温(℃)		降水量(mm)		日照時間(hr)※	
月	半旬	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	1	-0.6	-0.6	2.1	1.8	-3.7	-3.5	13.5	31.8	3.0	3.9
	2	0.4	-0.6	3.4	2.0	-3.1	-3.6	30.5	32.5	3.7	5.4
	3	-0.9	-1.0	2.8	2.0	-5.1	-4.4	31.0	27.9	6.6	6.6
	4	-1.6	-0.6	2.1	2.4	-6.2	-3.9	12.5	29.5	7.4	7.4
	5	1.2	-1.3	4.7	1.6	-2.4	-4.5	11.5	19.5	4.2	7.0
	6	-1.1	-0.8	3.0	1.9	-5.4	-3.6	38.5	27.9	9.2	6.8
日平均(月合計)***		-0.4	-0.8	3.0	1.9	-4.4	-3.9	137.5	169.2	34.1	37.1
2	1	-1.4	-1.3	3.1	1.9	-5.7	-4.6	10.0	24.0	10.1	8.0
	2	-1.6	-1.4	0.9	1.5	-4.4	-5.1	32.5	25.1	4.8	6.5
	3	1.1	0.0	4.3	3.3	-3.4	-3.8	18.5	22.7	9.7	9.6
	4	-1.1	0.8	3.1	4.3	-4.8	-2.6	23.0	21.4	6.8	6.9
	5	-1.1	-0.1	2.1	3.4	-4.3	-3.7	30.5	14.5	11.4	10.0
	6	3.3	0.3	7.3	3.9	0.2	-3.7	4.0	5.3	7.7	12.1
日平均(月合計)		-0.4	-0.3	3.2	3.0	-4.0	-3.9	118.5	113.1	50.6	53.1
3	1	2.0	1.5	6.3	5.4	-2.1	-2.4	1.5	17.9	14.5	15.4
	2	1.0	2.0	4.9	6.2	-2.6	-1.8	10.0	12.4	21.2	15.9
	3	3.9	2.6	8.7	6.8	-0.3	-1.4	0.0	16.1	16.5	17.5
	4	1.8	3.1	5.1	7.8	-1.8	-0.9	19.0	8.2	5.0	19.4
	5	6.7	3.5	12.7	7.9	1.0	-0.4	6.5	11.9	23.5	19.4
	6	5.1	5.1	10.2	10.8	0.4	0.0	36.5	13.3	15.3	31.2
日平均(月合計)		3.5	3.0	8.0	7.6	-0.9	-1.1	73.5	79.8	95.9	118.9
4	1	5.9	6.6	9.7	12.2	2.6	1.6	6.5	15.3	9.4	27.9
	2	8.6	6.8	15.0	12.0	3.2	2.0	5.0	20.2	14.4	24.0
	3	9.8	8.5	14.4	14.2	5.6	3.1	23.0	10.3	8.6	26.6
	4	12.0	9.4	16.7	14.8	7.4	4.2	55.5	13.7	17.9	25.8
	5	12.8	10.5	19.3	16.5	8.4	4.4	3.5	9.1	20.6	30.0
	6	10.9	10.8	16.0	16.9	5.9	4.7	18.0	14.2	15.7	32.4
日平均(月合計)		10.0	8.8	15.2	14.4	5.5	3.3	111.5	82.9	86.5	166.7
5	1	13.2	12.6	19.2	19.0	8.2	6.2	7.5	11.1	33.8	34.2
	2	13.1	12.1	18.6	17.7	7.1	6.4	35.5	14.3	22.9	28.6
	3	14.8	14.0	21.0	19.9	8.7	8.3	2.5	10.2	28.7	31.8
	4	17.4	14.9	23.3	20.5	12.0	9.6	35.5	21.9	25.4	32.2
	5	15.4	15.4	19.2	21.3	11.6	9.7	16.0	7.7	11.9	34.7
	6	16.4	16.1	22.4	21.2	10.6	11.1	25.0	21.1	36.5	35.9
日平均(月合計)		15.1	14.2	20.7	20.0	9.7	8.6	122.0	86.2	159.2	197.4
6	1	16.8	15.8	22.0	20.7	11.7	11.1	1.0	13.3	29.4	29.4
	2	21.3	17.0	28.9	22.1	13.6	12.2	0.0	11.7	54.7	30.7
	3	20.3	17.9	24.5	22.5	15.6	13.7	5.0	10.3	17.7	26.0
	4	24.5	18.2	31.0	23.0	18.9	13.9	2.0	16.0	50.6	30.4
	5	24.5	19.2	29.2	24.1	21.2	15.2	24.0	12.3	20.1	26.5
	6	23.3	19.4	27.8	24.0	19.7	15.3	14.0	32.7	22.7	19.5
日平均(月合計)		21.8	17.9	27.2	22.7	16.8	13.5	46.0	96.3	195.2	162.6

最高積雪深126cm：令和7年 2月24日 消雪日：令和7年3月26日 初雪日：令和7年11月19日

(平年：135cm)

(平年：3月27日)

(平年：11月21日)

項目		平均気温(℃)		最高気温(℃)		最低気温(℃)		降水量(mm)		日照時間(hr)	
月	半旬	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年※	平年
7	1	25.7	20.5	30.2	24.6	22.1	17.2	15.5	27.3	23.2	22.8
	2	25.8	20.6	30.7	25.0	22.0	17.0	0.0	31.4	39.5	25.6
	3	24.6	21.2	29.9	25.5	19.6	17.5	0.0	33.5	39.1	22.9
	4	27.8	21.8	33.9	26.0	22.5	18.6	6.0	27.7	44.1	22.6
	5	27.2	22.5	33.2	27.0	21.8	18.9	0.0	59.2	54.6	27.7
	6	27.4	23.4	33.9	28.1	21.4	19.7	0.0	23.9	51.5	35.6
日平均(月合計)		26.5	21.7	32.0	26.1	21.6	18.2	21.5	203.1	252.0	157.2
8	1	28.7	23.7	35.2	28.6	23.7	19.6	26.5	16.7	46.7	38.2
	2	24.4	23.8	29.3	28.5	21.3	19.9	34.5	21.0	17.2	29.8
	3	25.2	22.7	29.8	27.1	21.2	19.3	9.5	40.7	33.2	25.1
	4	25.9	22.2	32.2	26.7	19.8	18.6	6.5	21.8	45.3	27.3
	5	26.2	23.0	31.4	27.7	22.0	19.2	16.0	33.3	31.7	26.4
	6	25.8	21.4	30.5	25.9	21.7	18.0	53.5	29.0	35.2	24.4
日平均(月合計)		26.0	22.7	31.4	27.4	21.6	19.1	146.5	162.5	209.2	171.1
9	1	24.5	21.0	30.2	25.7	20.0	17.1	86.0	13.7	29.1	27.6
	2	23.7	20.7	29.1	25.0	19.3	17.3	24.0	24.5	25.5	22.2
	3	22.8	19.5	27.3	24.4	18.6	15.7	20.0	13.4	20.5	28.2
	4	21.1	18.8	25.6	23.8	16.5	14.7	87.5	27.0	21.2	20.5
	5	19.0	16.8	24.7	21.7	12.7	12.4	14.0	23.2	34.5	21.9
	6	18.9	16.2	24.7	21.3	13.5	11.9	8.5	20.5	36.7	21.0
日平均(月合計)		21.7	18.8	26.9	23.6	16.8	14.8	240.0	122.2	167.5	141.4
10	1	19.2	15.7	25.2	20.8	14.3	11.1	30.0	17.4	29.6	19.0
	2	17.4	13.9	22.0	18.5	13.7	9.5	24.5	21.3	30.1	14.2
	3	14.6	12.8	19.3	17.7	9.8	8.6	29.0	14.5	18.2	19.5
	4	13.6	11.2	16.8	16.7	10.0	6.1	44.5	14.4	12.7	19.5
	5	8.7	10.5	14.3	15.5	4.3	5.8	7.0	23.7	22.4	20.0
	6	9.5	9.6	14.5	14.6	4.2	4.8	48.5	20.6	17.6	21.0
日平均(月合計)		13.7	12.2	18.5	17.2	9.2	7.6	183.5	111.9	130.5	113.2
11	1	9.4	9.1	15.3	14.3	4.6	4.4	71.0	17.9	25.2	18.9
	2	7.8	8.6	12.8	13.1	2.8	4.2	15.5	26.3	11.4	12.1
	3	6.1	7.0	11.7	12.0	1.0	2.4	9.5	23.4	21.5	16.3
	4	4.7	6.2	10.2	10.8	-0.1	1.8	23.5	28.3	15.1	12.2
	5	7.5	4.8	11.9	8.6	3.3	1.1	23.0	31.1	6.8	10.9
	6	7.6	3.8	12.2	7.6	2.6	0.2	22.5	30.8	11.7	9.9
日平均(月合計)		7.2	6.6	12.3	11.1	2.4	2.4	165.0	157.8	91.6	80.2
12	1	4.6	2.9	8.5	6.4	1.0	-0.4	56.0	36.4	7.0	7.9
	2	2.6	1.8	6.5	5.1	-0.4	-1.2	39.0	31.2	6.6	8.9
	3	0.9	1.5	5.1	4.4	-2.9	-1.1	43.5	39.7	3.3	4.5
	4	3.3	0.3	8.5	2.7	-0.2	-2.2	12.5	45.0	10.3	4.4
	5	3.7	0.6	7.1	3.5	0.3	-2.4	22.0	33.9	4.7	5.2
	6	0.2	-0.5	3.2	2.1	-3.1	-3.1	71.0	39.3	5.4	6.1
日平均(月合計)		2.5	1.0	6.3	4.0	-1.0	-1.8	244.0	225.4	37.2	36.9
1～12月		12.2	10.5	17.1	14.9	7.8	6.4	1609.5	1610.3	1509.5	1435.7
4～11月		17.7	15.4	23.0	20.3	12.9	10.9	1036.0	1022.8	1292.7	1189.7

※本年の日照時間は農研機構 1kmメッシュ農業気象データシステム値を使用。

平年値は、2020年までは観測地点データ、それ以降は農研機構メッシュ気象データを用いて算出した。

※※日平均(月合計)は日データより算出した。

県北部（かづの果樹センター）

- ・ 位 置 鹿角市花輪字小坂野 3 - 12
- ・ 測 点 東経140度49分，北緯40度15分，海拔155m
- ・ 平年値 平成27年～令和 6 年

項目		平均気温(℃)		最高気温(℃)		最低気温(℃)		降水量 (mm)		日照時間(hr)	
月	半旬	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	1	-2.2	-2.6	0.4	0.3	-6.0	-6.4	8.9	12.9	6.8	6.2
	2	-1.1	-2.4	1.8	0.7	-5.4	-5.9	11.1	14.9	6.3	9.4
	3	-2.1	-3.0	1.5	0.7	-5.6	-7.3	13.2	13.6	13.2	11.0
	4	-2.9	-2.5	1.9	0.8	-7.5	-6.6	9.7	13.2	10.7	8.4
	5	0.4	-3.3	4.3	0.3	-4.1	-7.5	7.0	11.8	16.2	10.6
	6	-0.7	-2.6	2.7	0.5	-4.9	-6.1	16.8	12.0	13.8	12.8
日平均(月合計)		-1.4	-2.7	2.1	0.5	-5.6	-6.6	66.7	78.3	67.0	58.2
2	1	-2.3	-3.2	1.5	0.5	-6.3	-7.2	9.2	9.6	8.7	9.2
	2	-3.3	-3.3	-0.8	0.2	-6.9	-7.8	19.1	14.5	9.4	11.4
	3	-0.2	-1.5	2.6	2.5	-3.2	-5.8	16.6	17.3	12.5	12.9
	4	-1.9	-0.9	2.4	2.9	-7.7	-4.7	19.1	21.1	10.5	10.4
	5	-1.6	-1.7	1.3	1.9	-6.7	-5.5	15.4	11.4	9.4	12.5
	6	3.0	-0.8	6.7	3.5	-1.8	-4.9	9.4	10.0	21.9	15.9
日平均(月合計)		-1.2	-1.9	2.2	1.9	-5.7	-6.1	88.8	81.0	72.3	72.3
3	1	0.5	-0.2	3.5	4.2	-3.6	-4.9	1.8	17.4	5.1	18.4
	2	0.5	1.0	5.5	5.8	-3.4	-4.6	3.9	13.6	30.2	20.8
	3	2.6	1.7	6.6	6.6	-2.5	-2.8	2.3	17.8	18.0	17.0
	4	0.9	2.9	4.4	7.9	-4.9	-2.2	18.9	8.9	1.8	22.5
	5	5.1	2.8	11.6	7.7	-0.4	-2.2	25.4	14.9	18.7	19.4
	6	2.8	4.8	7.4	11.0	-0.5	-1.1	30.7	12.2	19.5	37.8
日平均(月合計)		2.1	2.2	6.5	7.2	-2.5	-2.9	83.0	84.7	93.3	128.8
4	1	4.4	5.3	8.0	11.6	0.9	-0.3	17.4	17.6	8.3	26.0
	2	7.3	5.6	14.2	11.6	3.0	0.3	15.5	17.8	17.9	26.9
	3	9.7	7.5	15.1	14.2	5.3	1.6	11.6	15.6	9.0	24.4
	4	10.8	8.5	15.8	14.6	7.4	2.9	32.9	11.4	16.6	25.3
	5	11.7	9.6	18.3	16.5	7.2	2.7	7.9	8.1	25.7	34.7
	6	9.5	9.8	13.9	16.6	6.7	3.5	20.4	17.5	16.2	32.4
日平均(月合計)		8.9	7.7	14.2	14.2	5.1	1.8	105.7	88.0	93.6	169.7
5	1	12.3	12.0	18.4	19.1	6.8	5.3	14.4	8.9	29.7	35.5
	2	12.1	11.5	18.2	17.9	6.4	5.3	19.1	19.0	23.9	31.0
	3	14.2	13.6	20.3	20.4	8.1	7.4	0.9	11.9	26.2	31.1
	4	15.8	14.8	22.6	21.3	10.0	9.0	29.0	25.3	30.1	35.3
	5	12.9	15.3	17.2	22.1	9.0	9.2	48.5	8.8	14.8	35.6
	6	14.9	15.9	21.9	22.2	8.7	10.8	2.8	24.8	41.9	39.6
日平均(月合計)		13.7	13.9	19.8	20.6	8.2	7.9	114.7	98.7	166.6	208.1
6	1	15.1	15.5	20.5	21.4	10.9	10.8	20.4	19.0	22.8	28.9
	2	19.6	16.9	28.3	23.2	11.6	11.7	0.0	11.5	55.2	34.1
	3	19.1	17.7	24.2	23.8	15.0	13.2	6.3	9.9	15.8	28.3
	4	23.0	18.1	28.5	24.1	18.5	13.3	16.1	19.7	38.1	30.7
	5	22.8	19.0	28.6	24.6	18.6	14.7	35.1	15.8	21.9	24.4
	6	22.3	19.4	26.6	24.8	19.0	15.1	44.0	46.8	17.2	23.0
日平均(月合計)		20.3	17.8	26.1	23.6	15.6	13.1	121.9	122.7	171.0	169.4

最高積雪深 97cm : 令和 6 年 2 月 25 日 消雪日 : 令和 7 年 3 月 29 日 初雪日 : 令和 7 年 11 月 18 日

(平年 : 72cm)

(平年 : 3 月 22 日)

(平年 : 11 月 18 日)

項目		平均気温(°C)		最高気温(°C)		最低気温(°C)		降水量(mm)		日照時間(hr)	
月	半旬	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7	1	24.7	20.7	29.0	25.5	21.3	17.1	15.9	29.7	17.3	21.6
	2	24.5	20.8	30.4	25.6	19.6	16.9	0.0	25.1	38.0	27.8
	3	22.7	21.6	29.5	26.6	16.6	17.5	0.0	39.8	36.8	28.0
	4	26.2	22.3	32.6	27.1	21.5	18.9	14.2	33.3	32.2	22.1
	5	26.3	23.1	32.1	28.2	22.0	19.2	0.0	52.7	31.7	26.2
	6	26.2	24.0	32.6	29.0	20.9	20.3	0.0	19.1	40.4	34.0
日平均(月合計)		25.1	22.1	31.1	27.1	20.4	18.4	30.1	199.8	196.3	159.6
8	1	27.2	24.3	34.1	29.7	22.0	20.1	59.2	19.4	40.5	34.2
	2	22.7	24.2	27.4	29.5	19.9	20.1	77.2	22.8	15.0	29.4
	3	24.0	22.8	29.4	27.5	19.3	19.3	45.9	57.2	35.7	22.5
	4	23.4	22.7	29.3	27.6	18.3	18.8	148.2	36.6	33.3	25.8
	5	24.8	23.4	30.5	28.5	19.4	19.4	9.7	39.1	38.9	26.3
	6	23.8	21.6	28.5	26.2	20.1	18.2	55.4	31.9	36.1	23.6
日平均(月合計)		24.3	23.1	29.8	28.1	19.8	19.3	395.6	207.0	199.4	161.8
9	1	23.3	21.0	28.3	26.5	19.1	16.6	155.7	25.7	23.0	28.1
	2	21.9	20.8	27.0	26.0	18.0	16.8	5.2	22.1	23.2	27.1
	3	20.9	19.1	26.4	24.5	15.8	15.3	26.2	25.5	29.4	24.5
	4	19.0	18.4	24.5	24.0	14.8	14.0	112.2	22.4	20.2	23.4
	5	16.9	16.5	23.3	22.0	11.1	11.9	15.4	30.6	35.6	24.4
	6	17.5	15.9	23.2	21.5	12.7	11.5	23.4	14.7	36.9	23.4
日平均(月合計)		19.9	18.6	25.4	24.1	15.3	14.3	338.1	141.1	168.3	151.1
10	1	18.2	15.3	24.4	20.8	13.5	10.7	18.9	40.8	31.0	20.4
	2	15.1	13.3	20.5	18.0	10.4	9.0	20.2	28.8	28.0	14.9
	3	13.2	11.9	17.7	17.2	8.9	7.4	7.1	26.6	16.6	21.1
	4	11.7	10.4	14.9	16.4	8.4	5.2	65.9	15.1	12.6	22.6
	5	7.0	9.6	12.1	15.0	2.7	4.8	2.0	24.4	20.5	20.3
	6	7.6	8.8	13.4	14.1	1.9	4.3	27.1	18.7	18.7	22.9
日平均(月合計)		12.0	11.5	17.1	16.8	7.5	6.8	141.2	154.4	127.4	122.3
11	1	8.3	8.2	12.9	13.7	4.6	3.5	51.4	18.8	20.8	19.9
	2	6.0	7.8	11.3	12.9	1.9	3.6	19.4	27.7	14.4	14.9
	3	4.7	5.8	9.6	11.2	0.2	1.2	9.6	21.8	21.7	16.5
	4	2.2	5.0	7.5	9.9	-2.4	0.9	32.8	22.2	12.7	14.7
	5	6.1	3.4	10.1	7.6	2.3	-0.5	17.6	21.6	12.8	11.5
	6	4.9	2.6	8.7	6.3	0.8	-1.1	36.9	27.3	13.6	11.4
日平均(月合計)		5.4	5.5	10.0	10.3	1.2	1.3	167.7	139.3	96.0	89.0
12	1	2.5	1.3	6.4	4.9	-1.5	-1.9	42.1	25.9	12.3	7.9
	2	1.2	0.3	3.8	3.9	-1.8	-3.2	48.4	14.2	5.7	10.6
	3	-0.9	-0.3	2.2	2.8	-4.6	-3.3	66.5	28.2	5.5	7.8
	4	1.3	-1.4	5.7	1.5	-1.9	-4.4	3.7	21.0	7.2	7.6
	5	2.4	-1.0	6.2	2.5	-0.4	-4.6	16.8	17.4	3.9	9.4
	6	-1.8	-2.4	1.3	0.2	-5.8	-5.2	42.4	25.0	5.0	9.5
日平均(月合計)		0.7	-0.6	4.2	2.5	-2.8	-3.8	219.9	131.7	39.6	52.7

※農研機構 1 kmメッシュ農業気象データシステム値。

※※日平均(月合計)は日データより算出した。

県央部（天王分場）

- ・ 位 置 鴻上市天王字鶴沼台43
- ・ 測 点 東経140度1分1秒，北緯39度51分30秒，海拔 7 m
- ・ 平年値 平成27年～令和 6 年

項目		平均気温(℃)		最高気温(℃)		最低気温(℃)		降水量(mm)		日照時間 (hr)	
月	半旬	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	1	0.9	0.8	3.5	3.3	-1.9	-2.4	13.7	18.2	9.1	5.8
	2	2.5	0.8	5.7	3.5	-0.5	-2.3	17.5	19.9	8.0	7.4
	3	1.2	0.6	5.1	3.8	-2.8	-3.0	11.6	16.0	16.8	10.8
	4	1.2	0.8	5.0	3.8	-2.2	-2.9	20.2	19.2	12.1	10.7
	5	2.6	-0.1	6.2	3.0	-1.0	-3.6	7.3	17.3	13.8	9.5
	6	1.6	0.4	5.3	3.2	-2.1	-2.9	19.7	19.4	20.8	9.7
日平均(合計)		1.7	0.5	5.1	3.5	-1.8	-2.8	90.0	110.0	80.5	53.9
2	1	0.2	-0.1	4.1	3.3	-3.6	-4.0	11.0	13.4	14.0	9.9
	2	-0.5	-0.2	1.9	2.8	-3.5	-3.6	21.4	19.1	5.8	9.1
	3	2.1	1.5	5.3	4.8	-1.4	-2.4	25.4	22.9	14.7	12.1
	4	0.7	2.0	4.6	5.5	-2.8	-1.8	22.9	24.6	13.3	11.8
	5	0.4	1.2	3.8	4.5	-3.9	-2.4	18.6	11.8	9.9	12.4
	6	4.4	2.1	8.0	6.0	0.8	-2.2	4.9	10.1	20.5	18.2
日平均(合計)		1.0	1.1	4.4	4.4	-2.6	-2.8	104.2	101.8	78.2	73.5
3	1	3.1	3.0	6.7	7.2	-0.3	-1.5	11.2	18.6	14.5	18.3
	2	2.2	3.8	6.6	8.1	-1.5	-0.7	12.5	17.1	31.0	21.9
	3	6.0	4.3	11.0	8.6	0.7	0.0	0.0	17.7	31.5	18.8
	4	2.5	5.2	5.8	9.9	-0.9	0.3	41.7	10.3	13.5	24.4
	5	8.7	5.1	12.8	9.6	3.1	0.4	17.7	19.1	22.2	22.2
	6	5.9	6.9	11.1	11.8	0.5	1.2	44.5	12.5	19.1	38.4
日平均(合計)		4.8	4.8	9.1	9.3	0.3	0.0	127.6	95.4	131.7	143.8
4	1	5.9	7.7	9.2	12.7	2.4	1.8	31.9	14.6	11.6	30.9
	2	9.2	7.8	14.1	12.4	4.6	2.3	12.3	18.9	17.2	29.6
	3	10.5	9.7	14.4	14.5	5.6	3.9	32.5	17.9	12.5	28.0
	4	12.1	10.3	15.7	14.6	7.6	4.9	30.0	15.7	16.7	25.0
	5	12.6	11.3	17.0	16.4	7.9	5.1	9.7	9.8	19.2	37.1
	6	11.2	11.7	14.4	16.4	7.3	5.9	27.6	21.6	11.6	33.8
日平均(合計)		10.2	9.8	14.1	14.5	5.9	4.0	144.0	98.5	88.7	184.4
5	1	13.7	13.6	18.3	18.6	8.8	8.0	10.4	11.0	37.2	36.8
	2	13.3	13.3	17.8	17.9	7.7	8.0	12.5	21.4	25.9	32.0
	3	14.2	15.1	18.8	20.0	8.6	9.7	8.0	13.4	26.7	31.6
	4	16.1	16.2	20.2	20.9	11.0	11.3	25.0	36.2	21.1	35.2
	5	14.5	16.6	17.7	21.2	10.9	11.6	43.0	10.3	13.7	35.6
	6	15.9	17.3	21.3	21.8	10.1	12.6	12.8	22.0	46.5	39.6
日平均(合計)		14.6	15.4	19.1	20.1	9.5	10.3	111.7	114.4	171.0	210.9
6	1	16.1	17.0	20.1	21.4	12.8	12.5	11.3	22.5	18.2	30.5
	2	20.5	18.2	26.4	22.9	14.0	13.5	0.0	10.8	60.5	35.1
	3	19.3	19.3	22.8	23.9	15.9	15.0	10.2	10.0	13.7	31.1
	4	22.9	19.7	27.6	24.1	19.1	15.4	17.1	13.7	36.6	34.2
	5	23.4	20.6	27.9	24.9	19.3	16.7	20.9	17.7	21.8	29.2
	6	22.9	20.8	26.4	24.8	20.1	16.9	12.9	47.6	15.7	21.9
日平均(合計)		20.8	19.3	25.2	23.7	16.9	15.0	72.4	122.4	166.4	182.0

最高積雪深 20cm：令和7年1月17日、2月25日 消雪日：令和7年 3月19日 初雪日：令和7年11月18日  
 (平年：34cm) (平年：2月 1日) (平年：3月18日) (平年：11月20日)

項目		平均気温(℃)		最高気温(℃)		最低気温(℃)		降水量(mm)		日照時間(hr)	
月	半旬	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7	1	25.5	22.0	28.8	25.7	23.0	18.8	12.3	25.1	17.6	23.8
	2	25.0	22.5	29.5	26.6	20.8	18.7	0.0	26.7	39.9	28.7
	3	24.7	23.2	30.7	27.3	19.0	19.3	0.0	44.5	47.8	29.2
	4	27.7	23.8	33.1	27.6	23.1	20.6	3.4	34.2	41.2	24.4
	5	27.3	24.7	31.3	28.7	23.8	21.1	0.0	30.7	42.5	28.6
	6	27.5	25.7	32.8	29.8	22.2	22.1	0.0	17.4	51.4	37.7
日平均(合計)		26.3	23.7	31.1	27.7	22.0	20.2	15.7	178.6	240.4	172.4
8	1	28.2	26.1	33.1	30.5	23.6	22.0	40.9	12.0	49.5	39.5
	2	24.4	26.2	28.8	30.9	21.2	22.1	103.3	21.6	19.8	35.2
	3	25.3	25.1	29.7	29.5	20.6	21.3	64.2	37.3	40.8	27.2
	4	25.4	24.5	30.0	28.9	20.1	20.5	61.6	30.0	33.8	31.2
	5	26.6	25.2	31.2	29.7	21.7	21.0	21.9	37.8	43.1	31.3
	6	25.5	23.8	29.9	28.3	21.1	19.8	86.2	33.2	41.2	29.4
日平均(合計)		25.9	25.1	30.4	29.6	21.4	21.1	378.1	171.8	228.2	194.0
9	1	25.1	23.2	29.5	28.1	20.4	18.5	124.5	25.9	28.0	33.1
	2	23.6	22.9	27.7	27.5	19.4	18.5	17.7	28.8	24.9	30.4
	3	23.2	21.5	28.0	26.3	18.2	16.9	33.8	25.1	32.4	30.1
	4	20.8	20.8	25.8	25.7	16.6	15.8	83.7	31.2	23.4	27.0
	5	19.5	18.7	25.2	23.9	13.7	13.5	33.2	33.7	39.6	28.6
	6	19.5	18.2	25.2	23.4	14.2	13.2	33.2	17.9	42.9	26.6
日平均(合計)		22.0	20.9	26.9	25.8	17.1	16.1	326.1	162.6	191.3	175.9
10	1	19.8	17.7	25.5	22.7	14.8	12.7	27.7	45.0	32.0	22.9
	2	17.4	15.6	22.3	20.7	12.9	10.6	11.0	28.1	34.2	20.7
	3	15.0	14.4	19.5	19.9	10.7	9.3	6.1	26.5	23.4	25.9
	4	13.2	12.7	17.1	18.5	9.1	7.1	58.5	27.4	14.2	24.1
	5	8.7	12.2	14.3	17.5	4.1	6.8	15.4	23.6	26.2	24.3
	6	10.2	11.3	15.7	16.6	4.6	6.0	25.1	24.8	22.6	26.5
日平均(合計)		13.9	13.9	19.0	19.2	9.2	8.7	143.8	175.3	152.7	144.4
11	1	10.3	10.9	15.6	16.2	5.4	5.5	81.1	28.0	24.8	22.2
	2	9.1	10.6	14.1	15.2	3.9	5.7	37.3	32.9	16.1	15.8
	3	7.5	8.7	12.9	13.9	3.2	3.5	16.2	31.2	22.7	17.9
	4	5.9	7.8	11.0	12.5	1.6	3.0	39.5	31.9	14.7	16.3
	5	9.0	6.5	12.7	10.5	5.1	2.2	41.4	25.9	12.7	11.8
	6	8.1	5.6	12.3	9.5	3.0	1.4	42.0	35.7	16.8	11.7
日平均(合計)		8.3	8.4	13.1	13.0	3.7	3.6	257.5	185.6	107.8	95.6
12	1	5.0	4.5	9.1	8.2	0.2	0.8	45.7	35.4	11.1	8.5
	2	4.7	3.6	8.4	7.3	1.3	0.1	71.4	20.7	8.4	11.2
	3	2.4	3.1	6.8	6.2	-1.3	-0.1	64.8	34.9	2.1	7.6
	4	5.1	1.9	9.0	5.0	1.1	-1.2	12.0	24.4	10.7	7.5
	5	4.8	2.3	8.3	5.9	1.3	-1.2	33.2	28.9	3.9	8.2
	6	1.5	0.7	4.7	3.6	-2.0	-2.3	55.7	31.8	6.2	9.0
日平均(合計)		3.8	2.6	7.6	6.0	0.0	-0.7	282.8	176.1	42.4	52.0
1~12月		12.9	12.2	17.2	16.4	8.5	7.7	2053.9	1692.4	1679.4	1682.6
4~11月		17.8	17.1	22.4	21.7	13.3	12.4	1449.3	1209.1	1346.6	1359.4

※農研機構 1 kmメッシュ農業気象データシステム値。平均値 平成27年～令和6年。

※※日平均(合計)は日データより算出した。

## (2) 生育概況

### ① リンゴ

#### 1) 県南部

##### 【発芽・開花期】

3月末～4月初旬の気温が平年並みより低かったため、発芽期は平年よりやや遅かった（「ふじ」の発芽日：4月5日（平年比＋3日））。4月上旬～5月上旬の気温は平年並みに推移し、展葉期以降の生態は平年並みからやや遅かった（「ふじ」の開花始期：5月3日（平年：5月2日）、満開：5月10日（平年：5月6日））。結実は、「ふじ」や「やたか」で開花期から満開期の降雨などにより、中心花で結実率が低く、「ふじ」の中心果結実率は68.6%、結実果そう率は79.0%であった。

##### 【果実肥大期】

初期肥大は、いずれの品種も良好だったが、7月上旬から約1か月の間、高温乾燥状態となったため果実肥大が停滞し、収穫期まで小玉傾向が継続した。降霜、降雹などの気象災害は局地的な発生にとどまった。

##### 【果実成熟期】

硬度、糖度が平年より高く、酸度が平年並み～低い傾向が8月1日調査から収穫時まで継続した。10月中旬まで平年より気温の高い状況が続いたため、早生～中晩生種で着色が遅れたが、10月下旬以降は気温が低下し、「ふじ」の着色は平年並みとなった。

##### 【果実品質】

###### ア. 早生種

「つがる」の果実肥大は平年より劣った。硬度、糖度、リンゴ酸含量は平年より高かったが、着色は劣った。

###### イ. 中生種

「やたか」の果実肥大は平年よりやや劣った。硬度とリンゴ酸含量が平年より高かったが、糖度、着色は平年並みであった。

###### ウ. 晩生種

「王林」の果実肥大は平年並みであった。硬度は平年より高かったが、糖度とリンゴ酸含量は平年並みだった。「ふじ」の果実肥大は平年より劣った。硬度は平年より高かったが、糖度、リンゴ酸含量は低かった。

#### 2) 県北部

##### 【発芽・開花期】

令和7年のかづの果樹センターの消雪日は3月29日で、平年（3月22日）より7日遅かった。「ふじ」の発芽期は4月12日（平年比＋5日）と平年より遅かった。発芽期～4月下旬は気温が高かったが、5月に入ってから最高気温が低く推移したため、満開期は5月14日（平年日＋3日）とやや遅くなった。発芽期以降、最低気温が氷点下を記録した日は無く、霜害は無かった。満開期から数日の間は好天であったため、全域的に結実量は確保されていたが、地域や品種によっては悪天候と重なり、一部でカラマツや変形果が目立った。

##### 【果実肥大期】

6月下旬までは概ね順調であったものの、7月は干ばつの影響で大きく停滞し、「ふじ」の7月15日調査時の横径は平年対比91%であった。8月以降はまとまった降雨により肥大はやや回復し、9月16日調査時の横径は平年対比98%であった。

##### 【果実成熟期】

8月下旬～9月にかけて気温の高い日が続いたことから、日焼け果の発生が見られた。また、10月に入ってから気温は高く推移し、中生種、晩生種とも着色が遅れが目立った。収穫盛期は「秋田紅あかり」が11月4日（平年比±0日）、「ふじ」が11月11日（平年比-2日）と概ね平年並みであった。

#### 【果実品質】

「ふじ」、「秋田紅あかり」の収穫果は平年に比べ、小玉傾向であった。病害は炭疽病、輪紋病の発生が例年よりやや多く見られた。

### ②オウトウ

#### 【発芽・開花期】

果樹試内の「佐藤錦」の発芽期は3月29日、開花期は4月24日、満開期は4月27日で平年と比較して発芽期は1日早く、開花期は2日、満開期は1日遅かった。満開期前後に気温の低い日や、降雨、強風がみられたものの、場内での花束状短果枝あたりの結実数は2.9果と平年より0.3果多かった。ただし、現地では結実不足となった園地が多かった。

#### 【果実肥大期】

場内では結実が多かったことから、果実肥大がやや劣った。

#### 【果実成熟期（果実品質）】

「佐藤錦」、「香夏錦」とともに収穫期はほぼ平年並みであった。過着果の影響で果実品質は糖度と着色が平年より低かった。また、うるみの発生が早くからみられた。双子果の発生は少なかった。

### ③ニホンナシ

#### 【休眠期】

本年度の「秋泉」の紫変色枝枯れ症の発生は平年並みであった。

#### 【発芽期～展葉期】

1～2月が高温傾向であったことから発芽が早まると懸念されたが、発芽期前後の3月下旬から4月初旬は気温が低い日が続いたため、初期生態はあまり進まず、発芽期は「幸水」が4月5日（平年4月4日）、「豊水」が4月1日（平年3月31日）で平年並みであった。4月に入ってから気温が平年並みに推移したため、展葉期は「幸水」が4月24日（平年4月23日）、「豊水」が4月18日（平年4月17日）で平年並みであった。

#### 【開花期】

開花始期は「幸水」が4月27日（平年4月27日）、「豊水」が4月24日（平年4月23日）、満開期は「幸水」が5月2日（平年5月1日）、「豊水」が4月29日（平年4月28日）でいずれも平年並みであった。開花期前半の気温は低めに推移したうえに降雨があり、後半も最高気温20℃以上の日が少なく、あまり良い受粉環境ではなかった。そのため結実は、平年並み～平年よりやや少なかった。

4月1日～5月10日までに場内で氷点下気温を記録したのは、4月1日（-6.7℃）の1日だけであり、展葉前であったため霜害は見られなかった。

#### 【果実肥大期】

初期生態が平年並みで、4～6月にかけて気温も平年並みであったことから、生育初期の肥大は平年並みから平年よりやや小さく推移した。さらに、梅雨期間（6

月23日～7月18日)の降水量は平年の半分以下であり、肥大は停滞した。8月以降の降水量は平年の2倍以上となったため、肥大は回復した。

#### 【果実成熟期】

収穫始期は、「幸水」が9月1日(平年8月27日)、「豊水」が9月19日(平年9月18日)であった。満開期が平年並みであり、収穫の早晩に影響する満開後30～40日の気温が低めに推移したことから、収穫は平年よりやや遅くなった。

#### 【果実品質】

果重は早生種で平年並みであった一方、中生種以降は平年よりやや重かった。全体的に地色の進みが遅く、糖度、酸度は平年並みであったが、「秋泉」では硬度が低かった。8月3半旬以降平年よりも気温が高かったため、日焼け果の発生が見られたが、記録的な高温となった前年よりは少なかった。

#### 【その他】

「幸水」の腋花芽分化率は予備枝由来の新梢で58.1%と平年並み(過去7年の平均63.5%)であった(2025年11月調査)。また、「あきづき」の花芽分化率は、予備枝からの新梢18.1%(同26.0%)、主枝から直接出た新梢5.6%(同14.8%)と平年より低かった。7月は日照量が多かったが、8月は日照量が少なかったため、花芽分化の遅い「あきづき」で花芽分化率が低下した。

### ④ブドウ

#### 【発芽・開花期】

春先の気温推移が平年並みで、発芽はいずれの品種も平年並みとなった。しかし、4月6半旬からの気温は平年を下回る日が多く、展葉や開花が遅れた品種もあった。また、「キャンベル・アーリー」では、開花前の6月1半旬頃から第一花穂を中心に花蕾の脱落等、花穂の発達異常が見られた。6月2半旬から気温が急激に上昇したことで生育が進んだものの、「キャンベル・アーリー」の開花は平年よりも5日遅くなった。一方、その後に開花した「巨峰」は平年比3日遅れ、「シャインマスカット」は平年並みとなった。

#### 【果実肥大期～成熟期】

結実後の気温は高く推移し、特に7月4半旬～8月1半旬は最高気温が連日30℃を上回った。また、6～7月は少雨となり、この期間の降水量は平年の2割程度にとどまった。このため、土壌の乾燥状態が続き、果粒の褐変症状や日焼け果が多く発生した。一方、縮果症の発生は少なかった。こうした気象条件で着色始期は「キャンベル・アーリー」で平年並みの7月23日であったが、「巨峰」で平年より早い22日となり、平年と異なる様相を示した。

本年は盛夏期の著しい降雨不足により、果粒が肥大不足のまま成熟が進んだ。このため収穫始めは平年に比べ「キャンベル・アーリー」でやや早く、「巨峰」と「シャインマスカット」で2～3週間程度早まった。いずれも果粒肥大は平年比9割前後とやや小さく、果粒の隙間から軸が見えるような商品性の劣る房も多かった。果実品質は酸がやや高いが糖度も高く、食味は良好であった。

## ⑤モモ

### 1) 県南部

#### 【発芽・開花期】

発芽は「あかつき」が3月29日で平年並み、「川中島白桃」が4月2日で平年より3日遅かった。開花は「あかつき」が平年より3日遅く、「川中島白桃」が平年並みとなった。満開は両品種とも平年よりやや遅れ、「川中島白桃」では5月2日となった。開花期間中は気温の変動が大きく、受粉に好適な日は少なかった。この影響で「川中島白桃」では、同一園内や樹内でも部分的に結実不足がみられた。

#### 【果実肥大期】

硬核始期は「あかつき」で6月17日（平年6月16日）、「川中島白桃」で6月19日（平年6月19日）であった。硬核期間中は気温が平年より高温で推移したことから、硬核終期は両品種とも平年より2～3日早まった。

果実肥大は6月が平年より高温であったことから「あかつき」、「川中島白桃」とも平年より大きめに推移した。しかし、6月～7月は小雨であったため、極度の土壌乾燥により、両品種とも特にこの時期の肥大が停滞した。

#### 【果実成熟期（果実品質）】

「あかつき」の成熟期にあたる7月は雨が少なく、多照であった。特に、7月3半旬～8月1半旬まで真夏日と猛暑日が続き、成熟の進みは緩慢であった。このため、収穫盛期は平年より遅い8月14日（平年8月9日）となった。収穫期の果実は平年に比べ、大きさがやや小さく、糖度が高く、着色がやや劣った。

「川中島白桃」の成熟期にあたる8月は平年並みの降雨量で日照時間は平年よりやや長かった。収穫盛期は平年並みの9月1日（平年8月30日）であった。果実肥大は8月の降雨で回復し、収穫期の果実の大きさは平年並みとなった。糖度は平年より高く、着色は概ね良好であった。

#### 【落葉期】

11月1半旬で例年並みであった。

### 2) 県北部

#### 【発芽・開花期】

発芽は平年よりやや遅かったものの、以降4月は気温が高く推移し、満開期は平年より1日遅い程度となった。満開期前後は降雨、低温日が多く、平年に比べ結実量が少なかった。

#### 【果実肥大期】

5月の気温が低かったことから初期肥大は平年に劣った。7月は気温が高かったものの降水量が著しく少なく、果実肥大は抑制された。一方で、8月はまとまった降雨があり、気温もやや高めに推移したため、収穫時点では概ね平年並みまで回復した。硬核期の始期は「川中島白桃」で6月25日と平年並みであった。その後、高温で推移し、硬核指数が「3」に達したのは7月10日と平年より5日早くなった。

#### 【果実成熟期】

かづの果樹センターにおける収穫盛期は「あかつき」で8月18日（平年日±0日）、「川中島白桃」で9月4日（平年日-1日）となった。

#### 【果実品質】

「あかつき」は収穫前日に降雨があったため、糖度はやや低かった。「川中島白桃」調査果の糖度、硬度は高く、食味は良好であったものの、収穫期間中は降雨もあり、軟化した果実も散見された。

### (3) 病害虫の発生状況

#### ① リンゴ

##### 1) 県南・中央部

病害では、腐らん病は、前年の伝染源が多く発生量が多かった。黒星病は、前年の発生量から越冬伝染源が少なく、発生は少なかった。場内における褐斑病の初発は、6月4日で早かったが、梅雨期間（6月～7月）に感染に適した降雨日が少なかったため、発生量は少なかった。輪紋病についても、6～7月の少雨の影響で発生量は少なかった。炭疽病は日焼け果での発病が広く見られたが、実害には至らなかった。

虫害では、5月中旬から7月にかけてカメムシ類の飛来が多く、果実の吸汁被害や樹上での産卵が多数確認された。主要種はチャバネアオカメムシで、クサギカメムシの飛来も認められた。8月以降の飛来量は平年並みであった。ナシマルカイガラムシは、発芽前のマシン油乳剤散布を実施していない園地で多発し、樹上部や園地の外縁部での被害が目立った。歩行幼虫は6月中下旬から発生が認められた。モモシンクイガは、5月下旬から9月中旬まで成虫発生が認められ、葉液のかかりづらい樹上部や、枝や果実が混み合っている部位などで果実被害が見られた。ハダニ類については、7月上旬頃からナミハダニが発生し、高温乾燥の影響で8月に増加したが、発生量は平年並みであった。一部の園地ではリンゴハダニが混発した。その他チョウ目害虫（ハマキムシ類、キンモンホソガなど）やアブラムシ類の発生は平年並みであった。

##### 2) 県北部

鹿角市予察ほ（センター内無散布圃場）における黒星病の初発は、5月27日で、前年（5月25日）より2日遅かった。初発18日後の発病果そう率は1.8%と少なく、現地ほ場における発生量も少なかった。褐斑病は昨年の発生量が多く、越冬伝染源が多かったこと、8月以降の降雨により発生量が増加した。また、炭疽病、輪紋病が例年より発生が多かった。

ハダニ類は7月高温で推移したことから、発生時期は平年よりやや早く、7月中旬～下旬に急増した。発生種はほとんどがナミハダニであった。シンクイムシ類は、予察ほにおける誘殺数は平年並みであり、7月以降、夜温が高い日が多く、果実への食入被害が散見された。カメムシ類のフェロモントラップへの誘殺数は平年より多く、被害が多く見られた。

#### ② オウトウ

灰星病が湯沢市の一部の園で幼果期から見られた。幼果菌核病の発生園は無かった。褐色せん孔病は、湯沢市で6月下旬に初発が確認されたが、ビニル被覆の除去以降、特に7月の降水量が極めて少なく、さらに適期防除が実施されたことから、発生は平年並みとなった。

害虫は全般的に発生は少なく被害量も平年並みであった。

#### ③ ニホンナシ

黒星病は、4～5月に降雨が多かったため6月に一部の園地で被害が平年よりやや多くみられたものの、「幸水」の果実の感受性が高い7月に降水量が極端に少なかったため、収穫果の被害は少なかった。黒斑病は、場内の無散布樹での発生は早

かったものの、現地ではユニックス顆粒水和剤、ポリオキシシリンAL水和剤の散布により発生量は平年並み～やや少なく推移した。果実腐敗性病害は、輪紋病は6～7月の少雨により平年並み以下の発生であったが、心腐れ症は5月の降水量が多く、夏期高温であったことから平年よりやや多かった。

ナミハダニは、6月中旬～7月下旬に一部園地で多発が確認された。多発生園ではダニオーテフロアブル以外の薬剤を使用しており、薬剤の感受性低下が疑われた。8月中旬以降はほぼ全県でやや少ない発生であった。モモシンクイガの被害は平年並みに少なかったが、8月下旬以降、一部園地でナシヒメシンクイガの果実被害が確認された。カメムシ類の飛来は7月以降多くなり、特に男鹿市で被害が多く確認された。その他害虫については、目立った被害は認められなかった。

#### ④ ブドウ

場内予察樹でのべと病初発確認日は7月8日（前年より4日早い、平年より13日早い）であり、その後は7月が干ばつ傾向に推移したことから平年並みの発生量となった。晩腐病、うどんこ病、灰色かび病、芽枯病の発病は少発生であった。

クビアカスカシバのフェロモントラップへの初誘殺は6月4半旬となり平年よりやや遅かった。誘殺数は平年並みで、被害も平年並みであった。チャノキイロアザミウマは場内予察圃場でのトラップへの初誘殺は6月6半旬となり平年より遅かった。適期防除により平年並みの発生であった。

#### ⑤ モモ

##### 1) 県南部

病害では、灰星病、せん孔細菌病、うどんこ病とも平年並みの発生であった。胴枯細菌病は散見される程度だが、年々増加傾向とみられる。

クサギカメムシの飛来数が例年より多かったものの適期防除により、実害には至らなかった。モモハモグリガの被害は平年並みであった。

##### 2) 県北部

病害では、せん孔細菌病においては、5月の降水量が多かったことから、生育初期の発生量がやや多かった。その後、7月の降水量が極端に少なかったことから、感染拡大が抑制され、大きな被害にはつながらなかった。一方で8月以降の降水量が多かったため、秋季の発病率が平年よりも多かった。落葉期の10月中旬にまとまった降雨があったことから、秋季の芽基部への感染には好適であったと考えられることから、来年度の春型枝病斑の発生はやや多くなる可能性がある。

虫害では、シンクイムシ類のフェロモントラップへの誘殺数は平年並みであったが、6月中旬以降、夜温の高い日が続いたことから、被害が散見された。近年はモモシンクイガに比べ、ナシヒメシンクイの発生量が増加傾向にある。また、カイガラムシ類の発生が年々増加傾向にある。本年はチャバネアオカメムシによる被害が非常に多く、特に幼果の被害が目立った。

#### **(4) 気象災害の発生状況**

##### **① 降雹害**

災害の発生時期：令和7年4月26日

災害の樹種：ニホンナシ（果実の打撲痕等）

災害の発生地域：男鹿市五里合中石地区、潟上市天王大崎地区、潟上市昭和大久保地区

被害規模：被害面積78ha、被害金額82,526千円

##### **② 雪害**

災害の発生時期：令和7年12月27日～令和8年2月の記録的大雪

災害の樹種：ニホンナシ（枝の折損、棚の倒壊等）、リンゴ（枝の折損等）、モモ（枝の折損等）

災害の発生地域：県北部（大館市、鹿角市主体）

被害規模：被害面積、被害金額は調査中（3月中旬現在）

## (5) 果樹の生態と果実品質

### ① リンゴ

第1表 県南部におけるリンゴの発芽及び開花期（本場）

品 種		発 芽	展 葉	開 花 期			開花日数
				開 花	満 開	落 花	
つ が る	本 年	4. 2	4.17	5. 3	5.10	5.14	12
	平 年	3.31	4.13	5. 1	5. 6	5.11	11
	平年差	+2	+4	+2	+4	+3	+1
	前 年	3.31	4. 9	4.23	4.28	5. 3	11
	前年差	+2	+8	+8	+12	+11	+1
や た か	本 年	4. 6	4.17	5. 5	5.11	5.17	13
	平 年	4. 2	4.13	5. 2	5. 6	5.12	11
	平年差	+4	+4	+3	+5	+5	+2
	前 年	4. 3	4.11	4.26	4.29	5. 5	10
	前年差	+3	+6	+9	+12	+12	+3
王 林	本 年	4. 1	4.12	5. 1	5. 6	5.12	12
	平 年	3.31	4.11	4.29	5. 4	5. 8	10
	平年差	+1	+1	+3	+2	+4	+2
	前 年	3.29	4. 8	4.22	4.27	5. 1	10
	前年差	+2	+4	+13	+10	+11	+2
ふ じ	本 年	4. 5	4.15	5. 3	5.10	5.16	14
	平 年	4. 2	4.12	5. 2	5. 6	5.12	11
	平年差	+3	+3	+1	+4	+4	+3
	前 年	4. 1	4. 9	4.25	4.29	5. 5	11
	前年差	+4	+3	+8	+11	+11	+3

注) 平年値：平成26年～令和5年（10か年）の平均

第2表 県北部におけるリンゴの発芽及び開花期（かづの果樹センター）

品 種		発 芽	展 葉	開 花 期			開花日数
				開 花	満 開	落 花	
つ が る	本 年	4.12	4.22	5. 9	5.14	5.18	10
	平 年	4. 6	4.19	5. 7	5.12	5.17	11
	平年差	+6	+3	+2	+2	+1	-1
	前 年	4. 6	4.14	4.29	5. 4	5.11	13
	前年差	+6	+8	+10	+10	+7	-3
王 林	本 年	4. 9	4.19	5. 5	5.10	5.16	12
	平 年	4. 5	4.16	5. 4	5. 9	5.14	11
	平年差	+4	+3	+1	+1	+2	+1
	前 年	4. 5	4.13	4.27	5. 2	5. 8	12
	前年差	+4	+6	+8	+8	+7	-2
秋田紅あかり	本 年	4.13	4.22	5. 9	5.15	5.19	11
	平 年	4. 9	4.19	5. 8	5.13	5.18	11
	平年差	+4	+3	+1	+2	+1	±0
	前 年	4. 7	4.15	4.29	5. 5	5.10	12
	前年差	+6	+7	+10	+10	+9	-1
ふ じ	本 年	4.12	4.20	5. 9	5.14	5.18	10
	平 年	4. 7	4.18	5. 6	5.11	5.16	11
	平年差	+5	+2	+3	+3	+2	-1
	前 年	4. 6	4.14	4.28	5. 3	5. 9	12
	前年差	+6	+5	+11	+11	+9	-2

注) 平年値：平成27年～令和6年（10か年）の平均

第3表 県南部におけるリンゴの果実生育及び品質（本場）

品 種	調査 月日	果重(g)			縦径(cm)			横径(cm)		
		本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
つがる	6. 2	6.0	7.8	77	2.17	2.37	92	2.21	2.41	92
	7. 1	51.7	62.3	83	4.44	4.71	94	5.00	5.25	95
	8. 1	146.4	178.7	82	6.18	6.62	93	7.08	7.56	94
	9. 1	243.9	277.3	88	7.33	7.79	94	8.41	8.84	95
	(収穫時) 9. 8	273.4	294.8	93	7.69	7.92	97	8.75	9.00	97
やたか	6. 2	4.8	6.0	80	2.38	2.30	103	2.00	2.09	96
	7. 1	48.9	53.2	92	4.55	4.42	103	4.78	4.88	98
	8. 1	132.4	155.8	85	6.04	6.31	96	6.73	7.21	93
	9. 1	234.4	258.2	91	7.46	7.57	99	8.19	8.58	95
	(収穫時) 9.29	301.7	334.9	90	8.28	8.29	100	8.82	9.30	95
王 林	6. 2	6.3	8.6	73	2.66	2.79	95	2.16	2.34	92
	7. 1	48.4	53.6	90	4.93	5.01	98	4.56	4.67	98
	8. 1	120.4	137.5	88	6.24	6.47	96	6.30	6.51	97
	9. 1	205.9	215.3	96	7.39	7.49	99	7.56	7.61	99
	10. 1	269.3	278.3	97	8.08	8.21	98	8.27	8.31	100
	10.31	303.3	320.6	95	8.43	8.62	98	8.62	8.71	99
	(収穫時) 11. 6	317.8	325.1	98	8.66	8.67	100	8.70	8.75	99
ふ じ	6. 2	4.9	5.4	91	2.35	2.25	104	1.99	2.06	97
	7. 1	35.7	44.8	80	3.98	4.19	95	4.39	4.60	95
	8. 1	88.5	123.4	72	5.12	5.80	88	5.98	6.61	90
	9. 1	158.1	215.6	73	6.23	7.01	89	7.33	7.94	92
	10. 1	214.6	282.6	76	7.04	7.74	91	7.96	8.63	92
	10.31	252.1	322.4	78	7.44	8.17	91	8.42	9.02	93
	(収穫時) 11.14	261.9	335.0	78	7.52	8.25	91	8.46	9.15	92

品 種	調査 月日	硬度(lbs)			糖度(Brix%)			リンゴ酸(g/100ml)		
		本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
つがる	6. 2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	7. 1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	8. 1	18.9	17.8	106	10.7	9.6	111	0.337	0.412	82
	9. 1	15.9	13.9	114	13.4	12.2	110	0.313	0.312	100
	(収穫時) 9. 8	14.1	13.4	105	13.8	13.2	105	0.325	0.285	114
やたか	6. 2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	7. 1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	8. 1	25.4	21.3	119	10.5	9.0	117	0.531	0.583	91
	9. 1	17.2	15.9	108	11.4	11.5	99	0.526	0.446	118
	(収穫時) 9.29	13.4	12.6	106	13.4	13.3	101	0.356	0.334	107
王 林	6. 2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	7. 1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	8. 1	27.2	24.2	112	10.2	9.1	112	0.578	0.512	113
	9. 1	21.2	20.1	105	11.6	10.5	110	0.458	0.404	113
	10. 1	19.5	17.5	111	12.6	11.8	107	0.365	0.345	106
	10.31	16.5	15.1	109	14.2	14.3	99	0.281	0.291	97
	(収穫時) 11. 6	16.4	15.0	109	14.9	14.5	103	0.294	0.287	102
ふ じ	6. 2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	7. 1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	8. 1	-	25.9	-	10.1	8.6	117	0.577	0.547	105
	9. 1	23.3	21.0	111	10.9	10.0	109	0.394	0.420	94
	10. 1	18.7	17.0	110	11.5	11.6	99	0.347	0.380	91
	10.31	15.7	14.8	106	14.5	14.1	103	0.280	0.346	81
	(収穫時) 11.14	16.1	14.4	112	13.1	14.3	92	0.254	0.332	77

注) 平年値：平成27年～令和6年（10か年）の平均

第4表 県北部におけるリンゴの果実生育及び品質（かづの果樹センター）

品 種	調査 月日	果重 (g)			縦径 (cm)			横径 (cm)		
		本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
秋田 紅あかり	6. 1	-	-	-	-	-	-	1.3	1.4	94
	7. 1	-	-	-	4.4	4.4	100	4.4	4.5	99
	8. 1	137.1	139.8	98	6.4	6.4	101	6.9	6.9	99
	9. 1	247.4	257.2	96	7.8	7.8	100	8.4	8.5	98
	10. 1	323.9	333.0	97	8.5	8.6	98	9.1	9.1	100
	11. 1	367.1	385.2	95	9.1	9.1	99	9.5	9.6	99
(収穫時)	11.4	377.1	392.0	96	9.0	9.2	98	9.5	9.7	98
王 林	6. 1	-	-	-	-	-	-	1.3	1.5	88
	7. 1	-	-	-	3.9	4.1	96	3.9	4.2	93
	8. 1	97.7	122.4	80	5.9	6.4	92	5.8	6.3	92
	9. 1	166.6	211.1	79	7.0	7.6	92	7.1	7.6	94
	10. 1	231.7	279.6	83	7.8	8.3	93	7.8	8.3	93
	10.31	277.7	331.2	84	8.3	8.9	94	8.3	8.9	94
ふ じ	6. 1	-	-	-	-	-	-	1.3	1.5	88
	7. 1	-	-	-	3.9	4.1	96	3.9	4.2	93
	8. 1	90.3	115.0	78	5.4	5.9	91	5.9	6.4	92
	9. 1	182.7	217.9	84	6.8	7.2	94	7.6	7.9	96
	10. 1	264.3	299.4	88	7.7	8.1	95	8.6	8.8	98
	11. 1	320.0	342.8	93	8.1	8.5	95	9.0	9.2	98
(収穫時)	11.11	316.1	354.6	89	8.1	8.6	95	9.0	9.2	97
品 種	調査 月日	硬度 (lbs)			糖度 (Brix%)			リンゴ酸 (g/100ml)		
		本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
秋田 紅あかり	6. 1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	7. 1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	8. 1	21.7	21.3	102	8.8	8.5	103	0.481	0.503	96
	9. 1	15.8	17.2	92	10.1	10.0	101	0.347	0.401	86
	10. 1	14.8	14.7	100	12.4	12.5	99	0.268	0.343	78
	11. 1	12.7	13.0	98	14.3	14.3	100	0.246	0.268	92
(収穫時)	11.4	13.4	12.9	104	14.1	14.4	98	0.227	0.253	90
王 林	6. 1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	7. 1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	8. 1	25.5	24.9	102	9.3	8.7	107	0.521	0.605	86
	9. 1	20.0	20.3	99	10.0	10.2	98	0.382	0.457	84
	10. 1	16.2	17.1	95	11.4	12.0	95	0.317	0.374	85
	10.31	14.5	15.2	96	13.8	13.9	99	0.238	0.330	72
ふ じ	6. 1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	7. 1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	8. 1	-	-	-	8.8	8.2	107	0.659	0.686	96
	9. 1	22.0	22.1	99	10.3	9.8	106	0.476	0.544	87
	10. 1	17.7	18.1	98	12.0	12.2	99	0.418	0.484	86
	11. 1	15.4	15.8	97	14.2	14.1	101	0.387	0.403	96
(収穫時)	11.11	14.8	15.4	96	14.6	14.4	101	0.421	0.386	109

注) 平年値：平成27年～令和6年（10か年）の平均

第5表 県南部におけるリンゴの花芽分化率（本場）

品 種	花芽分化率 (%)			横径 (mm)			令和8年産
	令和8年産	7年産	6年産	令和8年産	7年産	6年産	弱小芽割合 (%)
つがる	70.4	85.6	75.0	3.3	3.4	3.8	38.1
王 林	72.3	84.4	73.5	3.8	3.7	4.0	21.8
ふじ (わい化)	64.9	78.8	70.3	3.2	3.4	3.4	51.7
ふじ (マルバ)	76.2	82.7	62.7	3.5	3.5	3.5	34.2

注) 弱小芽：横径3mm以下の頂芽

第6表 県北部におけるリンゴの花芽分化率（かづの果樹センター）

品 種	花芽分化率 (%)			横径 (mm)			令和8年産
	令和8年産	7年産	6年産	令和8年産	7年産	6年産	弱小芽割合 (%)
秋田紅あかり	69.7	85.6	85.3	3.4	3.9	3.8	37.4
王 林	30.2	86.1	80.7	3.4	3.7	4.0	36.9
ふじ (わい化)	57.7	58.2	47.8	3.1	3.6	3.8	50.2
ふじ (マルバ)	50.9	66.7	27.2	3.2	3.6	3.5	48.7

注) 弱小芽：横径3mm以下の頂芽

## ②オウトウ

第7表 オウトウの発芽及び開花期（本場）

品 種		発 芽	展 葉	開 花 期			収 穫 期
				開 花	満 開	落 花	
香 夏 錦	本 年	3.27	4.23	4.23	4.27	5.9	6.17
	平 年	3.28	4.21	4.21	4.26	5.6	6.15~6.17
	平 年 差	-1	+2	+2	+1	+3	+2
	前 年	3.25	4.16	4.15	4.18	4.30	6.10~13
	前 年 差	+2	+7	+8	+9	+3	+7
佐 藤 錦	本 年	3.29	4.24	4.24	4.28	5.14	6.23~6.29
	平 年	3.30	4.22	4.22	4.27	5.12	6.20~6.28
	平 年 差	-1	+2	+2	+1	+2	+3~+1
	前 年	3.25	4.17	4.16	4.21	5.6	6.13~6.21
	前 年 差	+4	+7	+8	+7	+8	+10~+7

注) 平年値：平成27年～令和6年（10か年）の平均

③ニホンナシ

第8表 ニホンナシの生態状況（天王分場）

品 種		発 芽	展 葉	開 花 期			開花日数
				開 花	満 開	落 花	
幸 水	本 年	4.5	4.24	4.27	5.2	5.10	14
	平 年	4.4	4.23	4.27	5.1	5.10	14
	平 年 差	1	1	0	1	0	0
	前 年	4.4	4.20	4.23	4.27	5.4	12
	前 年 差	1	4	4	5	6	2
豊 水	本 年	4.1	4.18	4.24	4.29	5.7	14
	平 年	3.31	4.17	4.23	4.28	5.8	16
	平 年 差	1	1	1	1	-1	-2
	前 年	3.29	4.15	4.20	4.24	5.5	16
	前 年 差	3	3	4	5	2	-2
あきづき	本 年	4.1	4.22	4.26	5.1	5.6	11
	平 年	4.1	4.22	4.26	4.30	5.8	13
	平 年 差	0	0	0	1	-2	-2
	前 年	4.1	4.20	4.23	4.26	5.1	9
	前 年 差	0	2	3	5	5	2
秋 泉	本 年	3.31	4.14	4.22	4.26	5.2	11
	平 年	3.31	4.16	4.21	4.26	5.3	13
	平 年 差	0	-2	1	0	-1	-2
	前 年	3.29	4.14	4.17	4.23	4.28	12
	前 年 差	2	0	5	3	4	-1

注) 平年値：平成27年～令和6年（10か年）の平均

第9表 ニホンナシの結実状況（天王分場）

品 種	枝区分	調 査	果そう 果そう数	果そう 結実率 (%)	果そう 平均 結実数	1果そう当たり結実数 (%)				
						0果	1果	2果	3果	4果
幸 水	短果枝	100	85	1.84	15	25	30	24	5	1
	腋花芽	100	81	1.34	19	45	24	8	3	1
豊 水	短果枝	100	93	3.07	7	13	18	16	28	18
	腋花芽	100	94	2.92	6	13	23	20	23	15
あきづき	短果枝	100	99	4.79	1	3	2	13	23	58
	腋花芽	100	100	4.32	0	6	12	10	27	45
秋 泉	短果枝	100	87	2.03	13	24	28	21	11	3
	腋花芽	100	87	2.17	13	23	25	22	10	7
かほり	短果枝	100	82	2.13	18	19	24	20	13	6
南 水	短果枝	100	98	3.08	2	15	27	15	23	18
新 高	短果枝	100	97	2.53	3	25	26	21	19	6

注) 全品種、絵筆による人工受粉を実施

第10表 ニホンナシの果実肥大（天王分場）

品 種	調査月日	縦径 (cm)			横径 (cm)		
		本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
幸 水	6. 2	1.72	1.82	95	1.98	1.98	100
	6.16	2.41	2.40	100	2.87	2.72	106
	7. 1	2.92	2.99	98	3.60	3.47	104
	7.15	3.50	3.62	97	4.32	4.26	101
	8. 1	4.58	4.92	93	5.64	5.90	96
	8.15	5.69	6.10	93	7.10	7.36	96
	9. 1	6.93	7.16	97	8.60	8.73	99
	9.16	-	-	-	-	-	-
	最 終	7.09	7.44	95	8.97	9.04	100
豊 水	6. 2	2.03	2.10	97	2.04	2.09	98
	6.16	2.73	2.68	102	2.86	2.79	103
	7. 1	3.28	3.28	100	3.55	3.47	102
	7.15	3.80	3.83	99	4.14	4.10	101
	8. 1	4.72	4.92	96	5.27	5.42	97
	8.15	5.90	6.07	97	6.80	6.80	100
	9. 1	7.59	7.39	103	8.76	8.43	104
	9.16	8.34	8.16	102	9.89	9.32	106
	10. 1	-	-	-	-	-	-
最 終	8.71	8.62	102	10.23	9.83	104	
あきづき	6. 2	1.69	1.76	96	1.78	1.80	99
	6.16	2.31	2.29	101	2.49	2.44	102
	7. 1	2.78	2.84	98	3.11	3.08	101
	7.15	3.27	3.32	98	3.68	3.70	99
	8. 1	4.15	4.40	94	4.84	5.08	95
	8.15	5.35	5.55	96	6.34	6.51	97
	9. 1	6.71	6.81	99	8.09	8.10	100
	9.16	7.41	7.59	98	9.07	9.03	100
	10. 1	7.85	-	-	9.60	-	-
10.15	-	-	-	-	-	-	
最 終	7.86	8.05	98	9.66	9.53	101	
秋 泉	6. 2	2.21	2.62	84	1.97	2.31	85
	6.16	3.13	3.35	93	2.88	3.08	94
	7. 1	3.80	4.10	93	3.59	3.83	94
	7.15	4.28	4.71	91	4.11	4.53	91
	8. 1	5.16	5.69	91	5.18	5.85	89
	8.15	6.14	6.71	92	6.68	7.24	92
	9. 1	7.77	8.03	97	8.63	8.83	98
	9.16	8.70	8.90	98	9.81	9.65	102
	10. 1	9.26	-	-	10.42	-	-
10.15	-	-	-	-	-	-	
最 終	9.55	9.66	99	10.60	10.32	103	

注) 平年値：平成27年～令和6年（10か年）の平均

「幸水」の9月15日、「豊水」、「あきづき」、「秋泉」の10月1日以降の測定値は収穫に伴い存在しない年度があるため平年値なし。

最終収穫日：「幸水」は9月19日、「豊水」は10月2日、  
「あきづき」は10月10日、「秋泉」は10月14日

第11表 ニホンナシの果実品質（天王分場）

品種	調査日	果実重 (g)			硬度 (lbs)			糖度 (Brix%)			リンゴ酸 (g/100mL)		
		本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
幸水	8. 1	85.8	104.6	82	15.5	13.0	119	11.4	9.0	127	0.143	0.094	152
	8.15	176.4	202.4	87	9.3	8.7	107	11.5	12.3	99	0.101	0.082	123
	9. 1	330.7	333.7	99	7.3	6.4	114	12.2	12.1	99	0.089	0.080	111
	9.16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	最 終	352.6	365.3	97	5.2	5.9	88	12.9	12.9	100	0.103	0.079	130
豊水	8. 1	80.6	86.4	93	19.2	17.1	112	10.1	7.5	135	0.276	0.223	124
	8.15	164.3	168.8	97	12.1	10.9	111	10.1	10.3	98	0.202	0.185	109
	9. 1	348.9	308.1	113	7.4	7.0	106	11.6	11.6	100	0.168	0.168	100
	9.15	451.1	419.4	108	5.6	5.6	100	12.1	12.3	98	0.161	0.169	95
	10. 1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
最 終	537.9	481.9	112	5.1	5.1	100	12.1	12.3	98	0.152	0.158	96	
あき づき	8. 1	59.2	73.2	81	18.3	17.5	105	10.1	7.1	142	0.172	0.138	125
	8.15	132.5	155.2	85	10.8	10.6	102	11.2	10.2	110	0.136	0.119	114
	9. 1	267.6	291.0	92	7.2	6.3	114	11.4	11.5	99	0.116	0.123	94
	9.15	342.9	394.7	87	5.2	5.4	96	11.8	12.0	98	0.128	0.130	98
	10. 1	430.5	-	-	4.5	-	-	12.2	-	-	0.143	-	-
最 終	442.0	433.6	102	4.8	4.7	102	13.0	12.9	101	0.131	0.128	102	
秋泉	8. 1	82.5	109.9	75	17.5	16.5	106	11.4	10.1	113	0.196	0.146	134
	8.15	153.4	204.3	75	11.4	10.6	108	11.4	11.6	98	0.120	0.109	110
	9. 1	309.0	361.6	85	6.6	7.8	85	11.8	12.1	98	0.115	0.088	131
	9.16	471.7	484.9	97	5.5	6.1	90	11.8	12.6	94	0.088	0.094	94
	10. 1	552.4	-	-	4.7	-	-	12.4	-	-	0.088	-	-
最 終	633.9	579.9	109	4.2	5.3	79	13.0	14.0	93	0.081	0.084	96	

注) 平年値：平成27年～令和6年（10か年）の平均

「幸水」の9月15日、「豊水」、「あきづき」、「秋泉」の10月1日以降の測定値は収穫に伴い存在しない年度があるため平年値なし。

最終収穫日：「幸水」は9月19日（最終調査日は9月16日）、「豊水」は10月2日（最終調査日は10月1日）、「あきづき」は10月10日（最終調査日は10月15日）、「秋泉」は10月14日（最終調査日は10月15日）

第12表 ニホンナシ各品種の果実品質（天王分場）

品種名	果重 (g)	縦径 (cm)	横径 (cm)	地色 (c. c.)	硬度 (lb)	糖度 (Brix)	リンゴ酸 (g/100ml)	pH	収穫期	備考
はつまる	308.4	7.2	8.3	3.1	4.3	12.8	0.094	4.95	8/12-8/22	肉質良好
あけみず	329.7	7.2	8.6	2.9	5.9	13.2	0.099	4.87	8/18-8/28	
蒼月	307.0	7.0	8.4	3.8	5.5	13.8	0.113	4.99	8/18-8/26	食味良好
香麗	271.2	6.7	8.0	3.3	5.3	13.6	0.091	5.05	8/22-8/29	芯腐れあり
サザンスイート	231.9	7.0	7.4	3.1	6.2	13.6	0.061	5.29	8/22-9/10	
筑水	281.6	7.0	8.1	3.4	4.5	13.9	0.101	4.82	8/25-9/3	
なつみず	434.5	7.9	9.5	3.4	5.7	12.6	0.122	4.58	8/26-9/10	例年より酸味少ない
凜夏	354.5	7.7	8.9	4.3	4.8	12.7	0.113	4.75	8/29-9/4	種未熟状態でミツ症なし
幸水	352.6	7.1	9.0	3.7	5.2	12.9	0.103	4.97	9/1-9/19	
あきあかり	406.1	7.9	9.2	2.9	4.9	12.5	0.083	4.90	9/1-9/22	
秋田1号	502.0	7.9	10.2	2.7	5.2	13.6	0.094	4.87	9/3-9/19	
秀玉	400.0	7.5	9.3	3.5	6.5	14.6	0.096	4.84	9/12-10/1	
豊水	537.9	8.7	10.2	3.7	5.1	12.1	0.152	4.43	9/19-10/2	みずみずしい
なるみ	452.3	8.0	9.6	3.6	4.4	13.0	0.105	4.64	9/19-9/26	ミツなし
長十郎	285.9	7.2	8.2	4.5	7.4	12.5	0.110	4.87	9/22-10/8	
あきづき	442.0	7.9	9.7	3.4	4.8	13.0	0.131	4.70	9/26-10/10	
南水	337.7	7.0	9.0	4.1	5.6	13.9	0.107	4.90	9/29-10/8	
かほり	750.8	9.8	11.5	4.3	4.6	12.2	0.089	4.95	9/29-10/21	
新高	412.0	8.3	9.3	4.1	7.1	13.1	0.109	4.54	10/1-10/8	
秋泉	633.9	9.6	10.6	4.1	4.2	13.0	0.081	4.99	10/3-10/15	
早生赤	549.8	8.6	10.3	4.5	6.9	12.7	0.236	4.16	10/8-10/30	非常に酸が強い
甘太	556.4	9.4	10.1	3.0	3.1	12.9	0.121	4.41	10/15-10/28	

注) 地色は農林水産省果樹試験場基準果実チャート「ニホンナシ（赤ナシ用）地色チャート（指数：1（緑）～6（黄色）」により判定

#### ④ブドウ

第13表 ブドウの生態（本場）

品 種		発 芽	展 葉	開 花 期			開花日数
				開 花	満 開	落 花	
キャンベル・ アーリー	本 年	4.22	5.2	6.10	6.13	6.17	8
	平 年	4.21	4.30	6.5	6.10	6.14	10
	平年差	+1	+2	+5	+3	+3	-2
	前 年	4.13	4.22	5.30	6.3	6.6	8
	前年差	+9	+10	+11	+10	+11	±0
スチューベン	本 年	4.27	5.10	6.14	6.17	6.23	10
	平 年	4.27	5.4	6.11	6.14	6.20	10
	平年差	±0	+6	+3	+3	+3	±0
	前 年	4.16	4.26	6.7	6.8	6.11	5
	前年差	+11	+14	+7	+9	+12	+5
巨 峰	本 年	4.25	5.4	6.14	6.17	6.21	8
	平 年	4.26	5.3	6.11	6.15	6.19	9
	平年差	-1	+1	+3	+2	+2	-1
	前 年	4.15	4.24	6.6	6.8	6.11	6
	前年差	+10	+10	+8	+9	+10	+2
シャイン マスカット	本 年	4.25	5.6	6.15	6.18	6.21	7
	平 年	4.27	5.3	6.15	6.18	6.21	7
	平年差	-2	+3	±0	±0	±0	±0
	前 年	4.16	4.24	6.9	6.11	6.15	7
	前年差	+9	+12	+6	+7	+6	±0

注) 平年値：平成27年～令和6年（10か年）の平均

第14表 ブドウの果実品質（本場）

品 種	調査 月日	1粒重(g)			着色(指数)			糖度(Brix%)			酒石酸(g/100ml)			備 考
		本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	
キャンベル・ アーリー	8.15	5.3	5.4	98	9.1	8.0	114	13.5	13.3	102	0.85	1.04	82	平年8.31収穫
	8.27	5.2	5.8	90	10.1	10.8	94	15.2	15.2	100	0.63	0.58	109	収穫時
巨 峰 (無核)	8.15	11.6	11.5	101	7.1	5.3	134	16.1	14.6	110	0.76	1.02	75	平年9.19収穫
	9.1	11.9	13.0	92	8.4	7.9	106	17.9	17.6	102	0.54	0.52	104	収穫時
シャイン マスカッ ト	8.15	9.8	9.6	102	3.4	2.9	117	15.6	13.3	117	0.51	0.94	54	平年9.18収穫
	9.1	10.8	12.0	90	3.5	3.3	106	17.7	16.6	107	0.27	0.38	71	
	(無核)	9.5	11.1	12.8	87	3.5	3.8	92	18.0	18.2	99	0.26	0.25	104

注1) 平年値：平成27年～令和6年（10か年）の平均

注2) 着色は農林水産省紫黒色系用カラーチャート（指数0～12）を使用

ただし、「シャインマスカット」は秋田県版シャインマスカットカラーチャート（指数1～6）を使用

⑤モモ

第15表 県南部におけるモモの生態（本場）

品 種		発 芽	展 葉	開 花 期			開花日数
				開 花	満 開	落 花	
あかつき	本 年	3.29	4.29	4.24	5.1	5.9	16
	平 年	3.29	4.25	4.21	4.27	5.5	15
	平年差	±0	+4	+3	+4	+4	+1
	前 年	3.29	4.18	4.14	4.17	4.26	13
	前年差	±0	+11	+10	+14	+13	+3
川中島白桃	本 年	4.2	5.3	4.25	5.2	5.13	19
	平 年	3.30	4.27	4.24	4.29	5.7	14
	平年差	+3	+6	+1	+3	+6	+5
	前 年	3.29	4.20	4.15	4.17	4.28	14
	前年差	+4	+13	+10	+15	+15	+5

注) 平年値：「川中島白桃」は平成27年～令和6年（10か年）の平均、「あかつき」は平成28、29年を除く8か年の平均

第16表 県北部におけるモモの生態（かづの果樹センター）

品 種		発 芽	展 葉	開 花 期			開花日数
				開 花	満 開	落 花	
あかつき	本 年	4.9	5.1	4.28	5.4	5.12	15
	平 年	4.4	4.29	4.27	5.3	5.11	15
	平年差	+5	+2	+1	+1	+1	±0
	前 年	4.5	4.20	4.18	4.25	5.3	16
	前年差	+4	+11	+10	+9	+9	-1
川中島白桃	本 年	4.10	5.2	4.30	5.5	5.13	14
	平 年	4.6	4.30	4.28	5.4	5.12	15
	平年差	+4	+2	+2	+1	+1	-1
	前 年	4.6	4.20	4.18	4.26	5.4	17
	前年差	+4	+12	+12	+9	+9	-3

注) 平年値：平成27年～令和6年（10か年）の平均

第17表 県南部におけるモモの果実肥大（本場）

	調査月日	縦径(cm)			横径(cm)			側径(cm)			備考
		本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	
あかつき	6.1	2.51	2.63	95	2.10	2.29	92	1.69	1.89	89	
	6.15	4.11	3.96	104	4.04	3.86	105	3.53	3.45	102	
	7.1	4.95	4.52	110	5.02	4.63	108	4.66	4.35	107	
	7.15	5.05	5.16	98	5.21	5.51	95	4.91	5.33	92	
	8.1	6.20	6.41	97	6.63	7.08	94	6.68	7.17	93	
	8.14	7.00	-	-	7.54	-	-	7.91	-	-	収穫時
川中島白桃	6.1	2.25	2.54	89	1.87	2.21	85	1.53	1.82	84	
	6.15	4.12	3.98	104	4.07	3.86	105	3.43	3.33	103	
	7.1	4.83	4.60	105	4.97	4.73	105	4.40	4.28	103	
	7.15	5.12	5.03	102	5.30	5.22	102	4.83	4.87	99	
	8.1	5.73	5.95	96	5.95	6.29	95	5.57	6.16	90	
	8.15	6.72	6.94	97	7.23	7.53	96	7.16	7.59	94	
	9.1	7.96	7.84	102	8.55	8.56	100	9.07	8.89	102	収穫時

注) 平年値：「川中島白桃」は平成27年～令和6年（10か年）の平均、「あかつき」は平成30年～令和6年（7か年）の平均。ただし、収穫時のデータは7年に満たないため、平均値なし。

前年度までの調査圃場を変更しているため、前年値および平年値は参考として示す。

第18表 県北部におけるモモの果実肥大（かづの果樹センター）

調査月日	縦径(cm)			横径(cm)			側径(cm)			備考	
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比		
あかつき	6. 1	-	-	-	14.7	17.5	84	11.9	14.7	81	
	6.15	35.7	36.4	98	33.5	33.6	100	28.7	29.3	98	
	7. 1	44.5	45.1	99	44.7	44.9	100	40.4	42.0	96	
	7.15	49.0	51.0	96	50.7	51.6	98	47.3	50.9	93	
	8. 1	61.1	63.5	96	64.9	67.0	97	64.8	68.6	94	
	8.15	76.0	72.8	104	82.6	79.5	104	85.4	81.6	105	
	8.18	76.7	77.0	100	83.2	84.0	99	85.6	87.4	98	収穫時
川中島白桃	6. 1	-	-	-	12.9	15.5	83	10.7	12.8	84	
	6.15	35.7	35.6	100	32.7	32.2	101	26.8	27.0	99	
	7. 1	46.7	47.1	99	46.4	46.2	100	39.9	41.0	97	
	7.15	49.8	50.9	98	50.8	50.4	101	45.3	48.0	94	
	8. 1	57.2	57.4	100	59.8	57.9	103	54.8	57.2	96	
	8.15	66.2	67.0	99	70.4	69.9	101	68.2	70.4	97	
	9. 1	81.0	79.1	102	89.5	85.4	105	90.6	87.0	104	
9.4	83.2	82.8	100	91.9	90.0	102	94.7	92.2	103	収穫時	

注) 平年値：平成27年～令和6年（10か年）の平均

「あかつき」の8月15日および「川中島白桃」の9月1日の平年値は、平成28年～令和5年（8か年）の平均

第19表 県南部におけるモモの果実品質（本場）

品 種		果重(g)	着色(指数)	地色(指数)	硬度(kg)	糖度(Brix%)	酸度(pH)
あかつき	本 年	242.1	1.8	2.4	1.31	15.9	4.77
	平 年	-	-	-	-	-	-
	平年比	-	-	-	-	-	-
	前 年	300.1	2.5	2.2	1.80	13.6	4.37
	前年比	81	72	109	73	117	109
川中島白桃	本 年	364.4	2.5	2.1	1.31	15.4	4.44
	平 年	345.9	2.3	2.2	1.49	14.5	4.49
	平年比	105	109	95	88	106	99
	前 年	420.5	2.2	2.2	1.60	15.0	4.45
	前年比	87	114	95	82	103	100

注) 着色:多3、中2、少1 地色:乳白3、白2、緑白1

平年値:「川中島白桃」は平成27年～令和6年（10か年）の平均、「あかつき」は過去10年のうち調査年が7年に満たないため平年値なし。

前年度までの調査圃場を変更しているため、前年値および平年値は参考として示す。

第20表 県北部におけるモモの果実品質（かづの果樹センター）

品 種		果重(g)	着色(指数)	地色(指数)	硬度(kg)	糖度(Brix%)	酸度(pH)
あかつき	本 年	301.6	3.0	2.2	2.0	13.6	4.49
	平 年	315.4	2.8	2.4	2.0	14.0	4.69
	平年比	96	106	93	99	97	96
	前 年	307.4	2.7	2.8	2.2	12.8	4.69
	前年比	98	109	79	88	106	96
川中島白桃	本 年	413.6	2.5	3.0	2.0	14.7	4.55
	平 年	388.5	2.6	2.1	2.1	13.8	4.56
	平年比	106	94	144	92	107	100
	前 年	419.3	3.0	2.6	2.2	14.6	4.65
	前年比	99	83	115	91	101	98

注) 着色:多3、中2、少1 地色:乳白3、白2、緑白1  
 平年値:平成27年～令和6年(10か年)の平均

秋田果試業報 69 卷

Annu.Rep.Akita Fruit-Tree Expt.Sta.No.69

ISSN 2188-6105

秋田県果樹試験場業務報告 第69巻

令和8年4月27日

発行者 秋田県果樹試験場  
郵便番号 013-0102  
秋田県横手市平鹿町醍醐字街道下65  
電話 (0182) 25-4224